ESD 活動推進のための評価指針策定に向けた調査

ー地域コミュニティでの ESD 推進のための手引き作成に向けてー

平成 30 年度報告書

岡山 ESD 推進協議会

目　　次

第１章　調査の概要 1
１．目的 1
２．スケジュール 1
３．事業実施体制 1
４．事業内容 1

第２章　ESD 岡山モデルの事例整理のための質問紙調査 2
１．ユネスコスクール調査の概要 2
２．公民館調査の概要 29
３．ユネスコスクール調査と公民館調査との結果の比較 51
第３章　ESD 活動推進のための評価指針の修正 57
１．「ESD 活動推進のための評価指針」（原案） 57
２．「ESD 活動推進のための評価指針」（修正案） 60
第４章　最終年度の事業に向けて 76

第1章　　調査の概要

1. 目的

岡山市は、「国連 ESD の 10 年（ United Nations Decade of Education for Sustainable Development）」の取り組みをもとに、2014 年に開催された ESD に関するユネスコ世界会議において、地域コミュニティでの ESD 推進を「ESD 岡山モデル」として発信した。そして世界会議以降も ESD を継続的に進めており、ユネスコの新たな5カ年のプロジェクト（The Global Action Programme on Education for Sustainable Development）においても、地域コミュニティでの ESD 推進のモデルになることを約束している。
こうした過程で、ESD の実践は豊富に蓄積している一方で、「ESD 岡山モデル」が新たな地域での取り組みに活用できるようにするための事例の整理や、整理に基づく ESD 活動推進のための評価指針の策定には至っていない。

そこで本調査事業では、これまでの取り組みを整理し、地域コミュニティで持続可能な社会づくりに向けての教育や地域の人材育成に取り組む人々が広く活用できる「ESD 活動推進のための評価指針－地域コミュニティでの ESD 推進のための手引き－」を作成する。

2. スケジュール

平成 28 年度　予備調査（文献調査及び面接調査）、評価指針の原案の作成
平成 29 年度　本調査（質問紙調査）
平成 30 年度　評価指針の修正
平成 31 年度　評価指針の完成、岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 の成果物として発信

3. 事業実施体制

岡山 ESD 推進協議会より岡山大学へ業務委託。岡山大学大学院教育学研究科（藤井浩樹） と岡山大学地域総合研究センター（山田一隆）を中心に、関係者による調査・研究。

4. 事業内容

平成 28 年度（1 年目）は、ESD 活動の評価指針についての文献調査と ESD 岡山モデルの事例整理のための面接調査を実施した。これらの調査に基づいて、「ESD 活動推進のための評価指針－地域コミュニティでの ESD 推進のための手引き－」の原案を作成した。

平成 29 年度（2 年目）は、前年度に作成した評価指針の原案に対して、岡山 ESD 推進協議会の参加団体から意見を聴取した。また、ESD 岡山モデルの事例整理を継続し、岡山市内のユネスコスクール（小学校 36 校、中学校 15 校）と公民館（16 館）を対象とした ESD 活動に関する質問紙調査を実施した。

平成 30 年度（3 年目）は、前年度に聴取した意見と質問紙調査の結果、ならびに諸団体の ESD 活動の 評価基準（岡山 ESD 推進協議会による褒章の審査基準等）を踏まえ、評価指針の原案を修正した。これを「ESD 活動推進のための評価指針－地域コミュニティでの ESD 推進のための手引き－」の修正案とした。

第２章　　ESD 岡山モデルの事例整理のための質問紙調査

１. ユネスコスクール調査の概要

調査時期 2018 年**月
調査対象 岡山市立のユネスコスクール、36 小学校、15 中学校
調査項目 詳細は別紙調査票を参照のこと

調査結果の概要

【ESDの取組の充実をとおした「自立する子ども」の育成について】

① 児童生徒の学びの高まりをめざすために，どのように進めてきましたか。（岡山型一貫教育の観点から）

「中学校区の学校間で，ESDの取組について情報交換の場を設けた。」（26、51.0%）が最も多く、「自校で，各教科等の横断的な学習内容と児童生徒に付けたい資質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー等）を作成して取り組んだ。」（24、47.1%）が次いでいる。中学校区の学校間で、9 年間の ESD カレンダーを作成したり、公開授業を実施したりする取組みは少数派（あわせてのべ 13 校）である。また、計画化、情報共有、授業公開など「実施していない」とした学校もあわせてのべ 6 校にのぼる。

自由記述からは、学校の多忙感や教職員の意識情勢の不十分さを表明する声もきかれた。

② 児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）

「地域と連携した取組を実施した。」（42、82.4%）が最も多く、「学校だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。」（35、68.6%）、「学習発表会等の場で，ESDの取組について児童生徒が発表する場を設け，地域の方に発信した。」（33、64.7%）が次いでいる。「ESDの取組について，公民館を使った発表会を実施するなど，児童生徒が地域に出かけて発信した。」「岡山市子どもESDフォーラム等， 児童生徒が中学校区等以外の発表の場で発信した。」など、学校外で児童生徒が取組みの発信を行っているのは、あわせてのべ 20 校（39.2%）ある一方で、何らかの理由で「実施していない」のは、のべ 4 校ある。

③-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。

「実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。」（20、39.2%）が最も多く、

「進め方が分からないため，実施していない。」「必要感がないため，実施していない。」をあわせて、のべ 34 校で、市内外の学校等と児童生徒が行う交流が実施されていない。

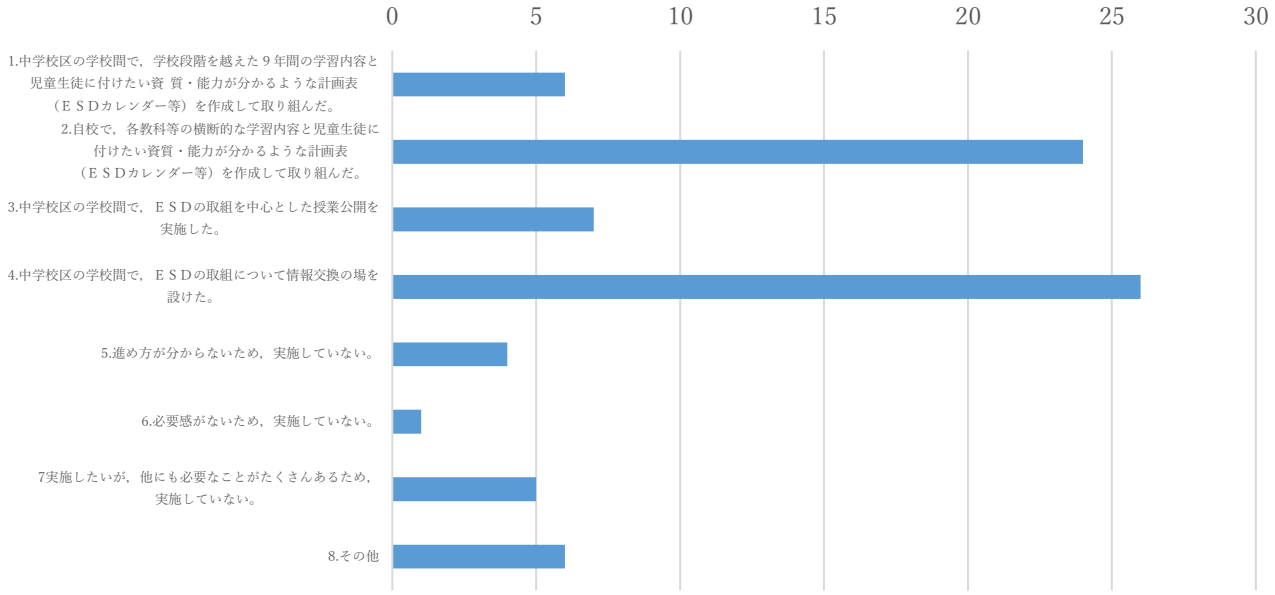
実施しているところでは、「自校が希望して，コンソーシアム事業の団体（岡山大学，ベネッセ，イオン，ハート・オブ・ゴールド，岡山ユニセフ協会，岡山ユネスコ協会，公民館，ESD推進課）やESD コーディネーター，指導課等への照会で実施した。」（11、21.6%）が最も多くなっている。

③-2 どのような交流の仕方をしましたか。（交流を行った場合のみ回答してください。）

「手紙やメール，ビデオレターの交換をした。」（9、17.6%）が最も多く、「インターネット回線を使ったテレビ会議システムを使った。」（8、15.7%）が次いでいる。教員による訪問、児童生徒による訪問は、それぞれ、あわせてのべ 8 校である。

【ESDの取組の充実をとおした「自立する子ども」の育成について】

①　児童生徒の学びの高まりをめざすために，どのように進めてきましたか。（岡山型一貫教育の観点から）※複数回答可



【ESDの取組の充実をとおした「自立する子供」の育成について】

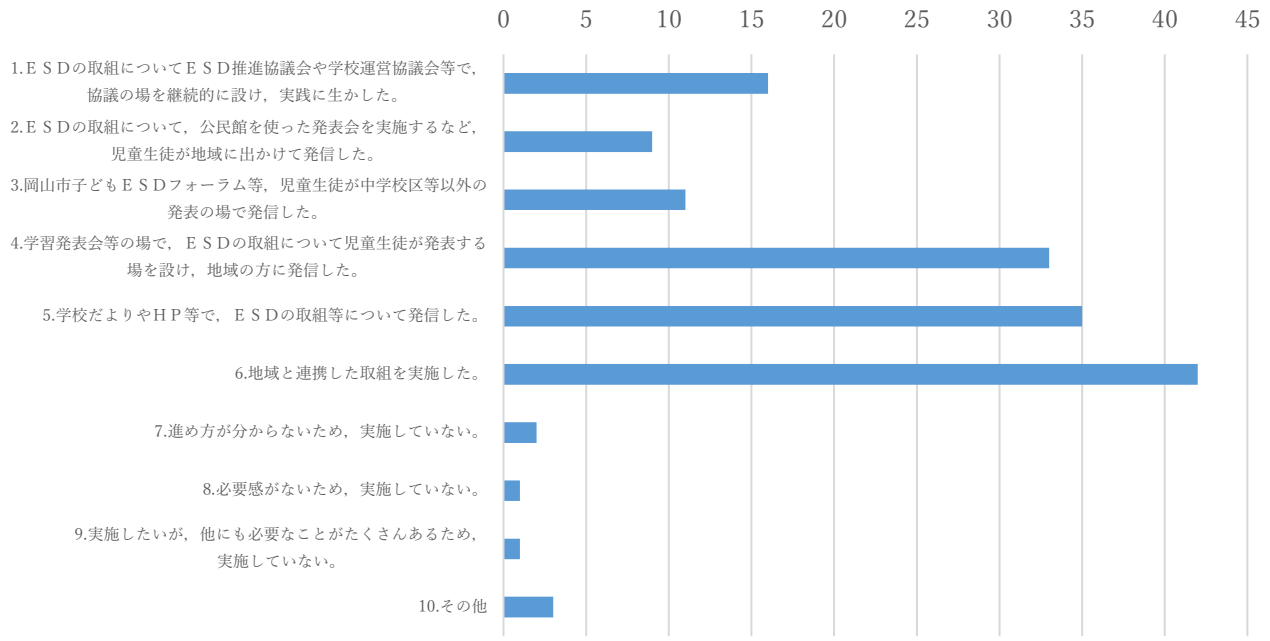
①　児童生徒の学びの高まりをめざすために，どのように進めてきましたか。（岡山型一貫教育の観点から）※複数回答可

		度数	パーセント
1.	中学校区の学校間で，学校段階を越えた9年間の学習内容と児童　生徒に付けたい資質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー等）を作成して取り組んだ。	6	11.8
2.	自校で，各教科等の横断的な学習内容と児童生徒に付けたい資質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー等）を作成して取り組んだ。	24	47.1
3.	中学校区の学校間で，ESDの取組を中心とした授業公開を実施した。	7	13.7
4.	中学校区の学校間で，ESDの取組について情報交換の場を設けた。	26	51.0
5.	進め方が分からないため，実施していない。	4	7.8
6.	必要感がないため，実施していない。	1	2.0
7.	実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。	5	9.8
8.	その他	6	11.8
			（回答者数51）

8.の記述

○ 学プロの一環で総合的な学習の時間の授業公開を実施したので，結果として，協議会が中学校区での情報交換の場になった。
○ 行事を終わらせるために、一生懸命学びの高まりや目的などにあまり意識がいっていないのが現状。
○ 情報交換の場を設ける必要性を感じながら、取り組むことができなかった。
○ 生活科，総合的な学習の時間でESDのねらいを付加し，実施した。
○ 中学校区の各学校で永年している決まった活動があり、その活動をESDの視点で見直しをしながらよりよい活動になるよう各学校で工夫しているため、学校間での情報交換や一貫した計画表などは必要でなく、実施していない。

② 児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）



② 児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）

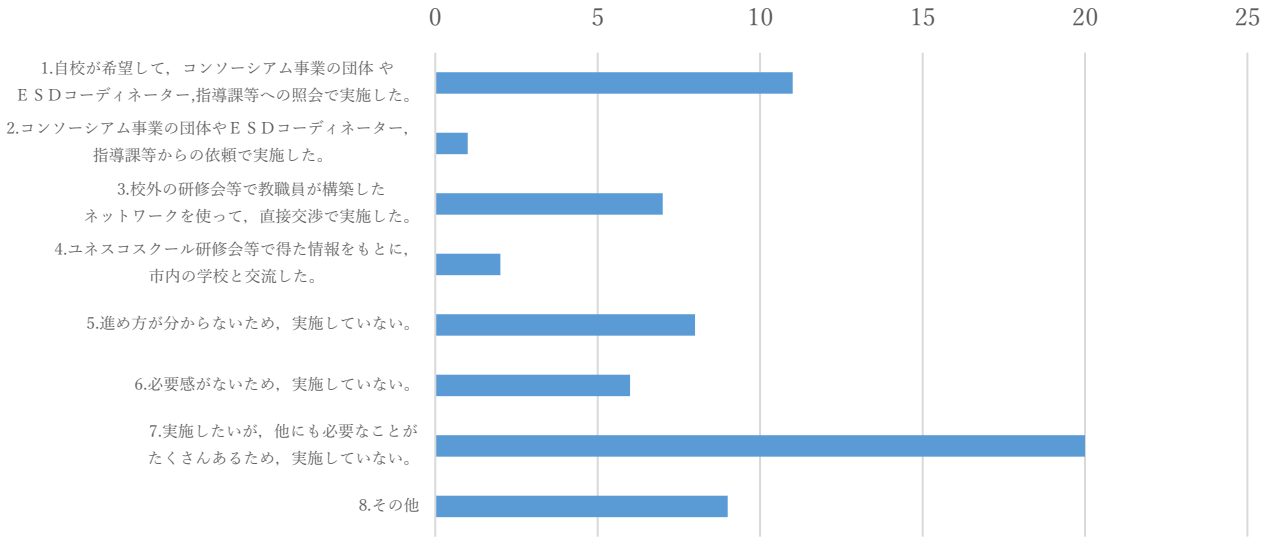
		度数	パーセント
1.	ESDの取組についてESD推進協議会や学校運営協議会等で，協議の場を継続的に設け，実践に生かした。	16	31.4
2.	ESDの取組について，公民館を使った発表会を実施するなど，児童生徒が地域に出かけて発信した。	9	17.6
3.	岡山市子どもESDフォーラム等，児童生徒が中学校区等以外の発表の場で発信した。	11	21.6
4.	学習発表会等の場で，ESDの取組について児童生徒が発表する場を設け，地域の方に発信した。	33	64.7
5.	学校だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。	35	68.6
6.	地域と連携した取組を実施した。	42	82.4
7.	進め方が分からないため，実施していない。	2	3.9
8.	必要感がないため，実施していない。	1	2.0
9.	実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため実施していない。	1	2.0
10.	その他	3	5.9

（回答者数51）

3.の「会の名称」
- ○ 岡山市子どもも ESD フォーラム
- ○ 岡山市子ども ESD フォーラム、里海交流シンポジウム
- ○ 山陽新聞 桃太郎賞
- ○ 第2回しゃべりんぴっく

10.の記述
- ○ ２年生と5年生は学区内の瀬戸南高校生と米の栽培，野菜の栽培活動を一緒に行い，生産物に対する思いや自給自足の考え方について教わったり質問したりして，持続可能な社会づくりの一員として実感を伴う学習をした。
- ○ 地域主催の活動にボランティアとして参加した。
- ○ 文化祭の中で、生徒会がパワーポイントを使って、本校のESD活動と題して紹介した。

③　-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。



③　-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。

		度数	パーセント
1.	自校が希望して，コンソーシアム事業の団体 やESDコーディネーター，指導課等への照会で実施した。	11	21.6
2.	コンソーシアム事業の団体やESDコーディネーター，指導課等からの依頼で実施した。	1	2.0
3.	校外の研修会等で教職員が構築したネットワークを使って，直接交渉で実施した。	7	13.7
4.	ユネスコスクール研修会等で得た情報をもとに，市内の学校と交流した。	2	3.9
5.	進め方が分からないため実施していない。	8	15.7
6.	必要感がないため実施していない。	6	11.8
7.	実施したいが他にも必要なことがたくさんあるため実施していない。	20	39.2
8.	その他	9	17.6
			（回答者数51）

1.の「照会した団体等」
○ アジアの教育支援の会
○ 岡山市教育委員会指導課
○ 岡山市内の公民館、岡山市教育委員会
○ 指導課
○ 新居浜市立金栄小学校
○ 明和製紙、環境センター「アスエコ」
○ CMC（カンボジア地雷撤去キャンペーン）

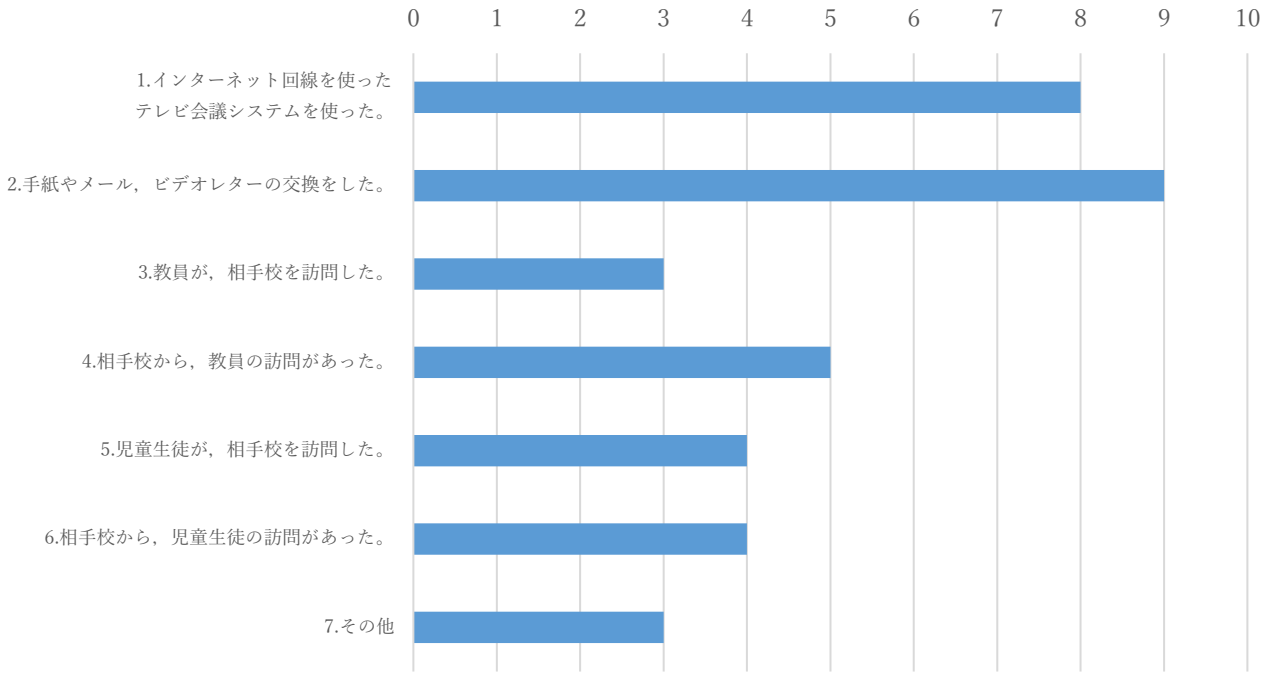
2.の「依頼があった団体等」
○ 指導課

3.の「相手先」
○ むつみ日本語学校、学芸館高等学校
○ 岡山県立総社南高等学校 ESS部
○ 岡山大学地域総合研究センター（アゴラ）、岡山理科大学
○ 亀岡市立保津小学校
○ 西粟倉村立西粟倉小学校，三原市立木原小学校
○ 盲導犬利用者の方、警察署
○ Image Elementary School (Washington,USA)

8.の記述

○ クラス数が多いのでなかなか交流することが難しい。
○ 岡山支援学校との交流を行っているが、それ自体が目標であって、ESDの活動の情報交換ではない。
○ 管理職が要請し，職員間で連絡調整をした。
○ 交通費が確保できない。
○ 従来から交流しているオーストラリアの小学校と交流した。
○ 小規模 ICT 活用事業の交流を生かして実施した。
○ 他にも必要なことがたくさんあるため、実施していない。
○ 中学校区内の小中学校において共通の課題について交流した
○ 毎年、高松農業高校との交流を行っいるので、担当者同士で交渉して実施した。

③　-2 どのような交流の仕方をしましたか。（交流を行った場合のみ回答してください。）



③　-2 どのような交流の仕方をしましたか。（交流を行った場合のみ回答してください。）

		度数	パーセント
1.	インターネット回線を使った。テレビ会議システムを使った。	8	15.7
2.	手紙やメール，ビデオレターの交換をした。	9	17.6
3.	教員が相手校を訪問した。	3	5.9
4.	相手校から教員の訪問があった。	5	9.8
5.	児童生徒が相手校を訪問した。	4	7.8
6.	相手校から児童生徒の訪問があった。	4	7.8
7.	その他	3	5.9

（回答者数51）

○ 支援物資を校内に呼びかけて集めて贈る活動をした。
○ 相手校は定まっているが，交流を軌道に乗せていく為に，岡山大学地域総合研究センターの協力を得ながら，現地コーディネーターと協議を重ね，相手校と職員同士のビデオ会議を行った。児童の交流を始める前に，職員のパイプをつなげることができた。
○ 中学校区内の清掃活動

【学校内での実施体制について】

④ 学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。

「職員会議等で，自校のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。」（33、64.7%）が最も多く、「学校教育基本計画を教職員間で共有する際に説明した。」（25、49.0%）、「学校便りの配付， HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を，教職員に伝えた。」（17、33.3%）が次いでいる。「学校教育基本計画を作成する際に，教職員間で協議した。」「教育課程編成の際に，ESDで育てたい資質や能力について協議した。」という計画策定時や課程編成時に教職員が協議しているのは、あわせてのべ 32 校である。

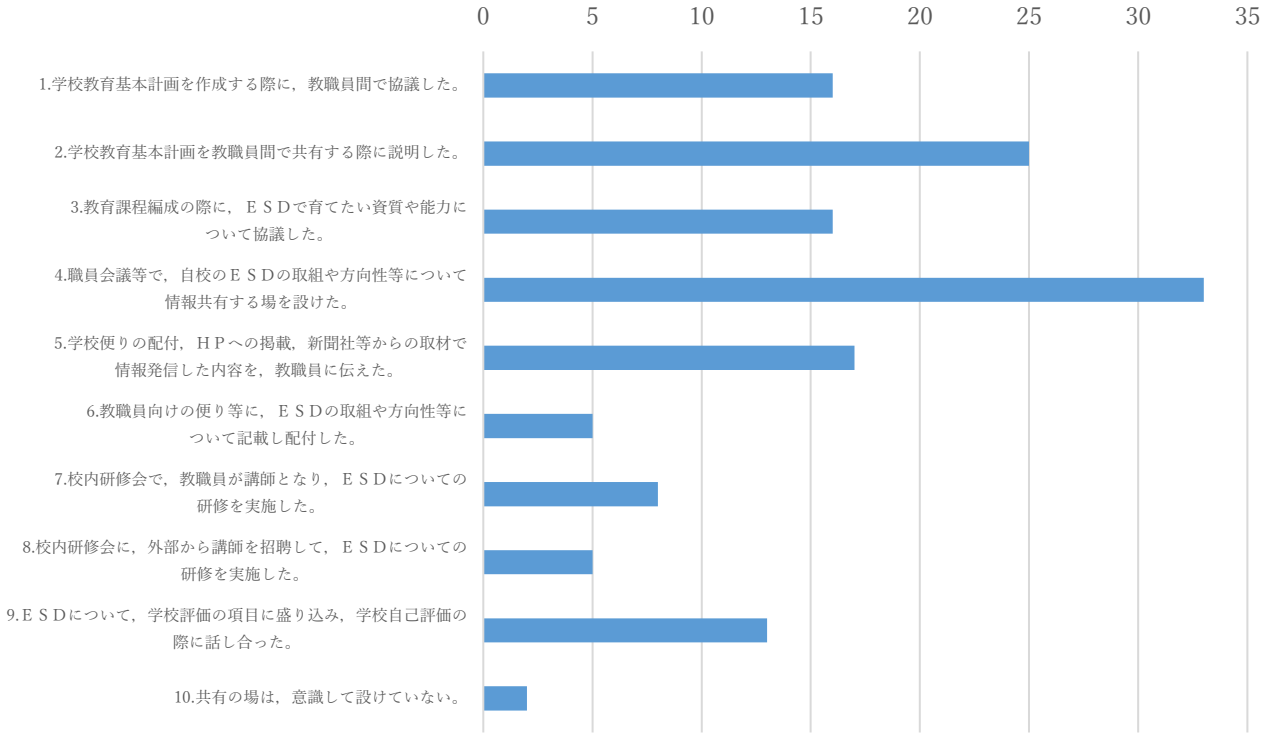
【ESDの取組から】

⑤ 今年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。

学校として、児童生徒の様子から、のいずれの観点からも、効果的な取組みができ、満足しているとの回答が、90%を越えている。担当として、の観点からも、それに比較すれば、やや低まるが、80%を越えて、満足していると回答している。

【学校内での実施体制について】

④　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。



【学校内での実施体制について】

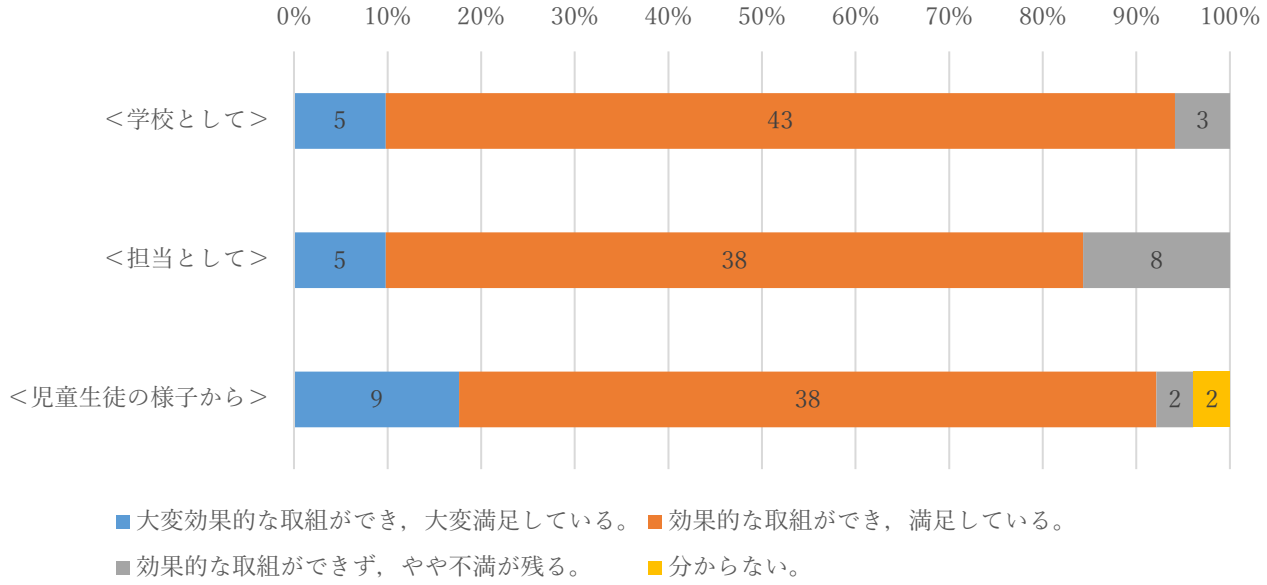
④　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。

		度数	パーセント
1.	学校教育基本計画を作成する際に教職員間で協議した。	16	31.4
2.	学校教育基本計画を教職員間で共有する際に説明した。	25	49.0
3.	教育課程編成の際にESDで育てたい資質や能力について協議した。	16	31.4
4.	職員会議等で自校のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。	33	64.7
5.	学校便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を教職員に伝えた。	17	33.3
6.	教職員向けの便り等にESDの取組や方向性等について記載し配付した。	5	9.8
7.	校内研修会で教職員が講師となりESDについての研修を実施した。	8	15.7
8.	校内研修会に外部から講師を招聘してESDについての研修を実施した。	5	9.8
9.	ESDについて学校評価の項目に盛り込み学校自己評価の際に話し合った。	13	25.5
10.	共有の場は意識して設けていない。	2	3.9
			（回答者数51）

8.の「講師名」
- ○ 岡山大学 柴川弘子先生
- ○ 原明子先生， 小森順子先生，片岡雅子先生
- ○ 中島莞爾先生
- ○ ESD コーディネーター
- ○ ESD コーディネーター 原明子

【ESDの取組から】

⑤　今年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。



【ESDの取組から】

⑤　今年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。

			度数	パーセント
学校として	1.	大変効果的な取組ができ，大変満足している。	5	9.8
	2.	効果的な取組ができ，満足している。	43	84.3
	3.	効果的な取組ができず，やや不満が残る。	3	5.9
担当として	4.	大変効果的な取組ができ，大変満足している。	5	9.8
	5.	効果的な取組ができ，満足している。	38	74.5
	6.	効果的な取組ができず，やや不満が残る。	8	15.7
児童生徒の様子から	7.	大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。	9	17.6
	8.	効果的な取組ができ，満足しているようだ。	38	74.5
	9.	効果的な取組ができず，やや不満が残るようだ。	2	3.9
	10.	分からない	2	3.9

（回答者数51）

⑥ 児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。

【児童生徒の意識】

「地域に対する愛着を抱くようになった。」（43、84.3%）が最も多く、「地域に貢献したいという気持ちをもつことができるようになった。」（34、66.7%）、「コミュニケーション能力が向上した。」（24、47.1%）が次いでいる。地域志向性の高まりが顕著に認識されているが、それについて、記述回答からは「ESD 活動というより、ボランティア活動として認識している生徒が多いように思う。」との声がきかれた。

【学校】

「地域との関係が深まってきた。」（44、86.3%）が最も多く、「ESDに教科横断的に取り組むことができた。」（25、49.0%）、「ESDの実践を通して，先生方自身の成長につながった。」（22、43.1%）、「同僚との協力，協働関係が強化，促進された。」（19、37.3%）が次いでいる。記述回答からも「行事を乗り切るために、教職員間の協力や連携が必要であった。」「ESDの視点をもつ先生が増えた。これから研修会などを行っていく必要がある。」といった、教職員の同僚性の涵養や、意識醸成の重要性を指摘する声がきかれた。

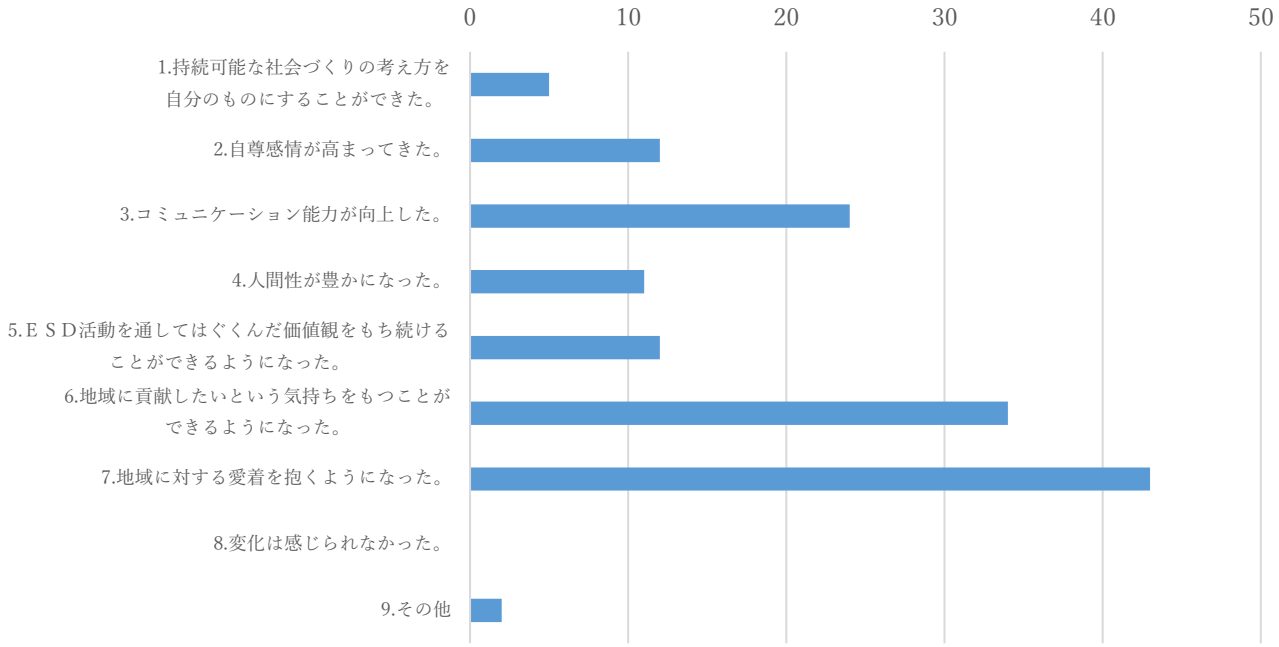
【保護者】

「積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。」（31、61.8%）が最も多い。保護者自身の学習活動が促進されたり、保護者どうしのつながりがみられたりする一方で、「変化は感じられなかった。」も 9 校
（17.6%）で挙げられている。

【地域】

47 校（92.2%）が、「積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。」を挙げている。一方で、記述回答からは、「民生委員さんや町内会長さんなど、決まった同じ人がいつも参加してくださっている感がある。」との声もきかれた。

⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【児童生徒の意識】

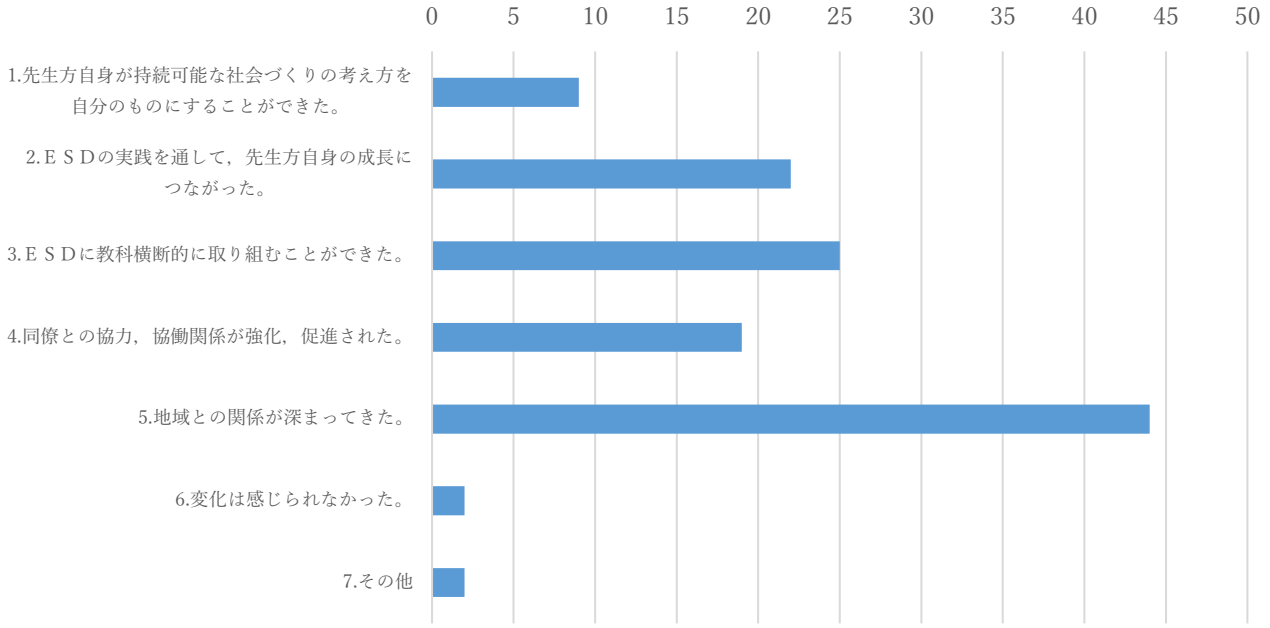


⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【児童生徒の意識】

		度数	パーセント
1.	持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。	5	9.8
2.	自尊感情が高まってきた。	12	23.5
3.	コミュニケーション能力が向上した。	24	47.1
4.	人間性が豊かになった。	11	21.6
5.	ESD活動を通してはぐくんだ価値観（人間の尊重，多様性の尊重，非排他性，機会均等、環境の尊重等）をもち続けることができるようになった。	12	23.5
6.	地域に貢献したいという気持ちをもつことができるようになった。	34	66.7
7.	地域に対する愛着を抱くようになった。	43	84.3
8.	変化は感じられなかった。	0	0.0
9.	その他	2	3.9
			（回答者数51）

9.の記述
○　周りの人と協力するようになった。物事をよく考えるようになった。
○　ESD活動というより、ボランティア活動として認識している生徒が多いように思う。

⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【学校】



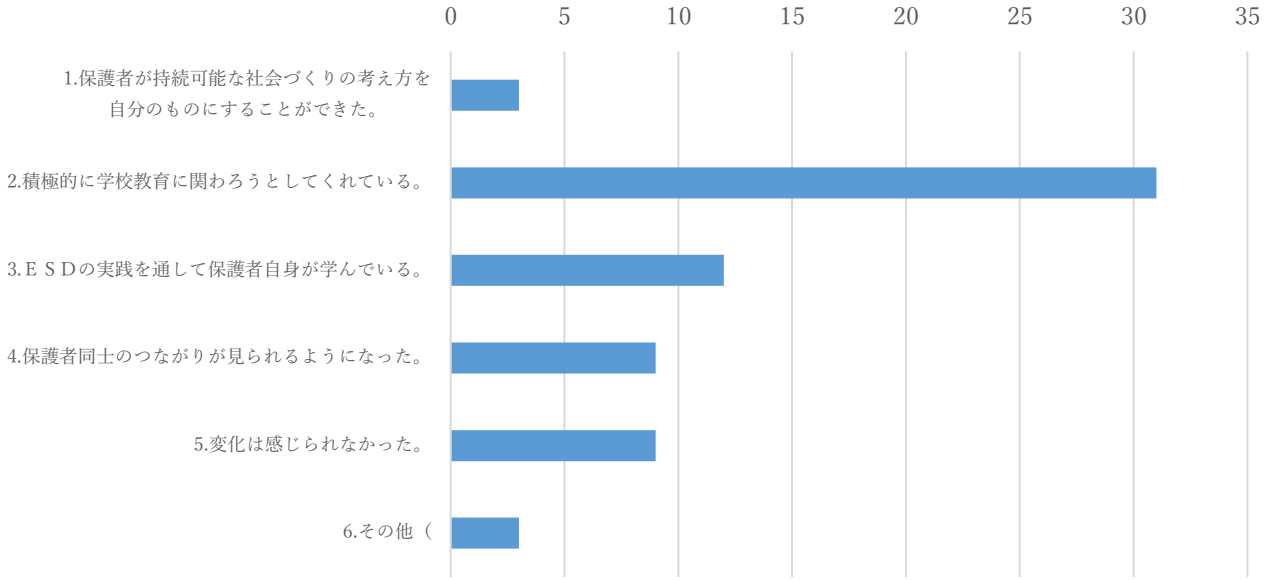
⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【学校】

		度数	パーセント
1.	先生方自身が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。	9	17.6
2.	ESDの実践を通して，先生方自身の成長につながった。	22	43.1
3.	ESDに教科横断的に取り組むことができた。	25	49.0
4.	同僚との協力，協働関係が強化，促進された。	19	37.3
5.	地域との関係が深まってきた。	44	86.3
6.	変化は感じられなかった。	2	3.9
7.	その他	2	3.9

（回答者数51）

7.の記述
○　行事を乗り切るために、教職員間の協力や連携が必要であった。
○　ESDの視点をもつ先生が増えた。これから研修会などを行っていく必要がある。

⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【保護者】

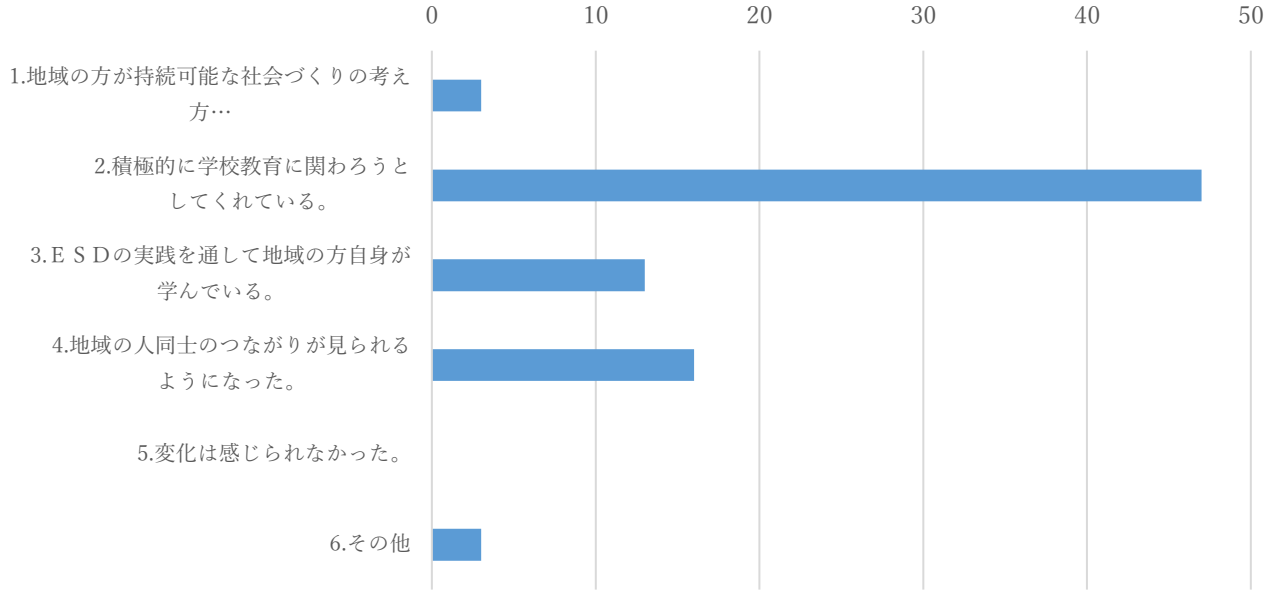


⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【保護者】

		度数	パーセント
1.	保護者が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。	3	5.9
2.	積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。	31	60.8
3.	ESDの実践を通して保護者自身が学んでいる。	12	23.5
4.	保護者同士のつながりが見られるようになった。	9	17.6
5.	変化は感じられなかった。	9	17.6
6.	その他	3	5.9
			（回答者数51）

6.の記述
○ わからない。
○ 子どもの活動や発表を見ることで保護者自身が地域に愛着をもつとともに、地域に貢献したいという気持ちも抱く保護者もおられた。
○ PTAの役員を受けている保護者を中心に活動が進められている。

⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【地域】



⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
【地域】

		度数	パーセント
1.	地域の方が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。	3	5.9
2.	積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。	47	92.2
3.	ESDの実践を通して地域の方自身が学んでいる。	13	25.5
4.	地域の人同士のつながりが見られるようになった。	16	31.4
5.	変化は感じられなかった。	0	0.0
6.	その他	3	5.9
			（回答者数51）

6.の記述
○　子供達との関係が深まった。ESD について理解が深まった。
○　民生委員さんや町内会長さんなど、決まった同じ人がいつも参加してくださっている感がある。

⑦ 今後の ESD の取組にあたり，来年度に向けて改善しようとしていることを記入してください。

○ 行事、内容の精選

○ ICT機器活用

○ ESD カレンダーは、現在「防災学習」を中心に作成しているが、「平和学習」や「地域学習」

○ についても作成していきたい。

○ ESD と道徳とを関連させた授業を行ってみたい。

○ ESDに取り組んでいる教師の達成感が薄い。ポイントをしぼって教師も子どもも達成感や，自分が変わったと実感できる取組の工夫をしていくことが必要。

○ 保護者にESDについてもっとアピールし，地域ぐるみでESDに取り組めるようにしていきたい。

○ 「目標を意識する」、「なぜこの取り組みをしているのかを考える」、あたりから取り組めばよいのではないかと考えている。

○ 校内研修等 をして、全職員が、講師の話を聞くなど、共通理解の構築が必要である。

○ 石川県の大海小学校との交流は，子ども達も大変楽しみにしているが，それぞれ転勤等で引き継ぎが難しい点やスカイプを行うにあたっての通信準備の手間が課題として考えられる。今年度の取り組み状況の共有や今後の交流のあり方について担当者と話をする場を設けることで，次年度につなげていく。

○ 学習指導要領の改定に伴い，各学年で取り組んでいる活動に，より一層の探究のプロセスが生まれるよう配慮しなければならない。そのために，どんな課題意識を子ども達にどうやって持たせていくのか検討が必要である。

○ 5学年の食と環境のプロジェクトの充実。（29年度は、大豆の収穫が少なかった。自分たちで栽培した大豆から豆腐づくりまでを経験させたい。）

○ ボランティアする生徒の固定化も見られるので，ボランティアの表彰や，全校への更なる呼びかけ，身近なボランティアをより増やしていくといった取り組みを今後も行っていきたい。

○ 一度活動してみたことを改善して、もう一度やってみたり、発信してみたりする場と時間を確保する。総合の学習の中だけではなく、家庭や地域で実践を続けていけるようになるとよい。

○ 英語科教員が中心になって取り組んでいるが、今後は学校全体の取り組みとしていけるよう計画したい。

○ 学んだことを地域へどのように発信していくかについて、取り組みの方法を検討したい。

○ 学校で行っているESDの活動を、学校便りなどを活用して地域や保護者に発信する。

○ 学校内で取り組んでいる内容だけでなく、地域の抱える問題（高齢化、バリアフリー、伝統文化の継承、文化財の維持・管理…等の問題についても、取り組んでいけたらと考えています。

○ 学習を通して学んだことをまとめたり、発表したりすることはできたが、それを実践する場が不足していると感じている。実践する場を作れるようにしていきたい。

○ 教科横断的な取り組みをさらに進めていくこと。

○ 教科等との関連

○ 教師間で情報や活動の様子について定期的に共有する場を設けること。

○ 現在のESDの取組について発信すること。

○ 今、総合的な学習の時間で実施している取り組みについて、ESDの視点でとらえなおすこと。（全教員で話し合う、考える。）

○ 今後の計画や学習内容の検討や見直し（平成26年度から3年間の計画が、1つの学年を通して終わり、4年目を終えての反省や課題）

○ 今年度の実践を継続していきながら取組を進めていきたい。

○ 今年度取り組んだ活動の繰り返しになるのではなく、今年の学びの上に来年度の学びが積み重なるように活動の工夫をしていく必要がある。

○ 今年度初めて学年間の交流を行い、狙いが深まったので、来年度も継続していきたい。

○ 子どもたちが学んだことが，子どもなりに「行動する」ことにつなげていけるよう場の設定を工夫していく。

○ 児童に付けさせたい資質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー）を作成したい。

○ 児童は具体的な課題をもち，意欲的に環境保全や共生社会のための活動に取り組むことができたが，問題意識を継続することが難しかった。そのため，今後はプロジェクトの期間のみで終わるのではなく，継続した意識付けと，長期期間で可能な環境保全のための活動方法を実践することで，持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観をより高めていきたい。

○ 児童は農業の盛んな地域の特色について知ることはできているが，将来の農業に対する課題意識まで育てることができていない。特に後継者の問題について,自分たちが「地域の農業を継承していくぞ。」というような意識の高まりや,「農業の広域化や共同体経営など」の具体的な農業の将来像をイメージできる力を持たせるために改善を図っていきたい。

○ 主に2学年、2つの領域で、ESDの取組を進めていった。それに加えて、来年度は、すでに地域と結びついて学習を進めている昔遊び等にも、ESDの視点をより取り入れて進めていく方向で検討していきたい。

○ 助成金がなくても継続して取り組めるような活動の見直し　職員の入れ替わりが進み，三勲小学校で取り組んできたESDについて職員間で意識の差が広がってきている。年度初めの早い時期にESDについて研修をもつ機会を設け共通理解を図りたい。

○ 総合の年計の見直しによる，学習内容の精選

○ 他教科との関連を図り，年間計画を作成している。

○ 地域人材の活用により、授業時間数が増えてきているので、年間を通した見直しが必要である。

○ 中学校区で活動内容について情報交換をしたり，ねらいに応じた人材活用ができたりするようなシステム作りを中学校区で考えていきたいと思います。

○ 長年同じ内容の活動が続いているものがあるので、少しずつ変化させていきたい。

○ 低学年のESDの取組がまだ不十分なので、地域の方とのつながりを感じられる活動を取り入れていきたい。また、今年度5年生が地域ボランティアの方との新たな活動に取り組んだが、関わりをもてる時間が少なかったので、時間の調整を早くから行いたい。

○　保護者にもESDの取組に参加してもらえるようにしたい。

○　保護者や地域の方に，もっとESDの取組について理解してもらえるように発信したり協議したりする機会を増やしていきたい。

○　防災についての取組を深めていく。

○　本校は、3年間を通して、環境学習を柱とするESDの取り組みを行っているが、学年ごとに取り組み内容が毎年決まっている。（取り組みの時期や内容など）精査が必要だと思われる。

○　毎年，することが年間計画で決まっているため，同じことを続けてできているのはいいが，発展しているように感じられないので，見直しをしていけるようにしたい。

○　様々な年代の人と関わりながら活動をすることができたが，ESDの視点から指導の系統性の見直しをして積極的に地域の人材発掘にも努めて活用する。人・自然・文化・物との繋がりをより大切にしていく。

○　来年度の教育課程編成の際に、教職員間で成果と課題を踏まえて協議したことを実践していきたい。

○　ESDの取り組みの状況をもっと情報提供していくこと。

○　ESDについて教職員間で協議する機会を増やす。

○　ESDの学習を行うための時間の確保に努めたい。

○　ESDの活動自体に大幅な変更は考えていないが、毎年２月に実施していた「福島子どもフォーラム」の形を変える予定。今までは、体育館で全学年発表をしていたが、パフォーマンス化するきらいがあったので、教室発表に変更して、質疑応答等じっくり進めていきたいと考えている。尚、他学年への発信は、ビデオ録画等を使うことも考えている。

○　ESDの観点から，総合的な学習の時間の学習活動を見直し，ESDの特色を色濃く打ち出した取組をスタートさせる。

○　ESDの取り組みや方向性等について情報共有する場を進んで設ける。

○　PDCAサイクルを実施し、事後評価と次年度への改善案を提案したい。

⑧ ESD を推進していく上で必要だと思われることを記入してください。

○　まずは学年間で互いの学習内容を知ること。そして，ESD で目指す子どもの姿を学校内で共通理解すること。

○　学校で育んだ力を発揮できる場が地域にない。地域にコーディネーターがいない。

○　転勤により，ESDの研修がもどってしまう。岡山市全体でどの教員もESDを知っているという状況にすることが必要だと思う。

○　学校だけでなく，地域ぐるみでESDに取り組めるような地域の組織づくり。（せめて公民館は協力的であって欲しい）

○　教職員の共通理解（どんな教育活動にもESD の考え方が根底にあること）

○　生徒にESD の考え方を意識させるための工夫

○　児童に身につけさせたい力をきちんと見据えて、ゴールを設定し、計画を立てること。

○　児童の意識や経験に合わせて、単元計画を改善していくこと。

○　教師も一人の学習者として、課題に向き合い、学年団等でESDについて考えてみること。

○ 児童や教職員の変化を見取る振り返りの機会、定期的な発表の場、全職員の共通理解。

○ 職員の異動があるので、毎年ESDについての研修を実施して、ESDについての共通理解をする。

○ 地域の方の協力が必要なので、地域と学校を結ぶコーディネーターのような人の育成とネットワークの充実。

○ 地域に学校の取組についてさらに発信し、連携を推進していくこと。

○ 中学校区内の他校の取組について知り、互いに情報交換していくこと。

○ 地域の人の話を直接聞いたり，実際に体験をしたりする活動を通して，地域の人・自然・物作りを身近なこととして捉えること。

○ 活動したことがきっかけとなり，本などを使って関心を持ってより詳しく調べてみようとしたり，調べたことや感じたことなどを友達に伝え合ったりすること。

○ 学習したことを自分のこれからの生活につなげること。

○ 教職員の研修、地域の方々との連携。

○ 継続して活動できるだけの予算。

○ ESDの活動に積極的に参加していこうとする児童の育成。

○ ESDの意識をもって、児童を学習や活動に取り組ませる教員の意識と熱意。

○ 地域や関係団体との連携。

○ 職員研修、持続可能で継続的・発展的な取り組み。

○ 日々の生活を、ESDの視点で見ていくこと、教職員の共通理解をすること。

○ ESDの概念がまだあまり広がっていない実態があるので、学校での活動を少しでも保護者に紹介していくことで広げていきたい。

○ 平島小では地域理解がESDの柱であるので、今後も地域へ出ての体験活動を重視することが必要だと考えている。

○ ESDカレンダーの活用。

○ 教職員間での情報交換。

○ ESDのさまざまな領域を詳しく知りたいという気持ちやより良い世界を作るために意欲的に取り組みたいという気持ちと行動力。

○ 教師のESDに関する専門性やそれにかけることができる時間。

○ ある程度の金銭的援助が必要。

○ 小規模校の為、担当者や担任だけの活動で終わってしまう傾向にあるため、もっと校内 研修が必要と思われる。

○ 地域との連携を深めるため、校内だけで活動を終わらせるのではなく、積極的な情報発 信や校外活動など地域へ向けた学習活動をカリキュラムの中に組み込む必要がある。

○ こうしたアンケートや振り返り自体、共通理解できる場や伝達できる方法を考え出し、行動に移すことが必要。

○ 活動をさらに充実させるために，年度末には学年グループ情報交換を行い，計画に無理はなかったのか等，総合的な学習の時間の指導計画の見直しをする。

○ 各学年の取り組みに協力してくれている地域人材の名簿や連絡先，連絡時期等の一覧表を更新していくことで，つながっている人脈

を共通理解し，今後に生かしていくことが必要である。

- カリキュラムマネジメントを学校全体で、進めていこうと思っている。
- グローバル化された現在の国際社会で生きていく児童の将来を考えたときに，海外の学校や施設・関係機関との交流の必要性を痛切に感じている。しかし,なかなか一歩を踏み出すことができていない。ESDの最終的な目標をどこに設定していくか曖昧になっていることが最大の原因であるが，教師自身の英会話力に対する不安も大きいと思われる。今後、海外との交流をしていくためには，本校のESDの最終的な目標をどこに設定していくか明らかにすることと,教師自身の英会話力の向上と外部講師の支援が必要であると思われる。
- 異動があり、職員構成がかわってくる学校現場で，教職員の意識や理解を深めるためには，研修の必要性を感じている。今後新しい取組を模索しながらより深い学習を進めていくことが課題である。 また、地域や外部専門家との交流を根付かせるとともに、実践したことを知識へ発信していくことが必要である。
- 岡山市の目指すつながりを大切にした教育にあるように，縦と横でつながることが大切であると思う。そのため，中学校区での連携や，地域とのつながりなどをより強くしていくことが重要になってくると考える。
- 学校全体でESD推進に取り組むことが大切だと考えています。指導の重点に位置づけて校内研修で理解を深めるとともに，教育課程で振り返りを行い，改善することを継続していく必要を感じています。 また，中学校区でのESD推進組織を活発に機能させていく必要があります。
- 学校側からの発信だけではなく、生徒が自ら声をかけ合い、公民館のイベントや、ESDの取組に参加できるようにしなくてはいけない。
- 教員間で、ESDの重要性を共通認識しておくことが必要だと思われる。それぞれ学年に応じた課題に取り組んでいるが、低・中・高の学年を通して目指すべき姿を共通して確認する必要がある。また、地域の方等外部の方々に協力していただく機会を多くもつために、教員も積極的に関係を築いていく必要があることを感じた。
- 教職員の研修・理解／地域との連携の取り組みをどこまで深めたり、広めていくか／学校の多くの行事とESDとのつながりを検討して取り組めるかどうか／教職員の負担をいかに増やさないか限られた時間の中で，より深くESDに取り組むために，内容を精選していくこと。
- ESDに関する校内研修の時間を取り，学年間で関連を意識して取り組むこと。 地域協力者が高齢化しているので，地域への発信を増やし，地域協力者を増やしていく。
- 限られた時間の中での取り組みになるので、内容を精選することと、教師の意識改革が必要と思われる。（担当者以外も積極的にかかわり発案していく必要性）
- 今年度初めてESDに関わり，ESDの考え方を捉えきれずにスタートしました。何度か研修に参加しましたが，参加されていた他の学校の先生方にも同じような不安を抱えられている方が多いようでした。そのため，ESDをきちんと捉えることのできる人の数を増やしていくことが必要だと感じました。
- 事項の教職員全体のより意識づくりがかがれるような取組。

○ 児童にとって身近な地域との連携を中心に学習を進める必要があると考える。その上で、学年の発達段階を踏まえて、さらに広い視野で物事を考える児童の育成がESDの推進につながると考える。

○ 児童自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け，自らの意思を決定し，行動を変革していくことができるようにするために，教師がどのような言葉掛けをしたり，どのような活動をしたりすればよいかを考えたうえで指導を進めていく。

○ 持続していくには、個人任せでなく、上記の「福島子どもフォーラム」のように“自分が忘れずに取り組んでいるか”の定期的なチェックが必要と思う。福島小学校では、学年毎にテーマを設けており（各年度によって切り口は変わるが）、全体で発表・共有することで、定期的なチェックが可能となっていた。

○ 従来から行われている環境教育や人権教育，国際理解教育とESDの違いを明確にしないとESDとは何かが伝わりにくい。

○ 人材、費用、協調

○ 正直、現場では日々の業務に追われ、教員は例年決まったことを決まったようにやっていくだけで手一杯である。（ESD推進というよりESD維持していくこと）

○ 生徒たちの視点と発想、提言に対して、地域の方々の暖かい援助。

○ 全教職員がESDの理念を共通理解し、同じ目標に向かって意識して取り組むこと。

○ 他校の実践等について知ることで，本校のESD 推進の参考としたい。

○ 地域との連携、関係機関との連携、教科等との関連

○ 地域の抱える諸問題を、子どもたち自身が自らの課題と考えたり、捉えたりできるよう、教師自身が社会に、世界に目を向けることがあります。そして、子どもたちがESD で育みたい態度やスキルを見つけ成長していくように、教師がESD に取り組む（指導する）ことで、共に成長する意識が必要であると思われます。学校の目指す生徒像が具現化するよう、指導する内容や指導法、評価の在り方を、ESD の視点で見直していくことも必要です。新たな教師の負担ではなく、授業改善の一環としても大切な視点であるとも考えます。持続可能な社会を形成する態度やスキルを身に付け、現代的な課題解決のため、子ども自身がその課題にどう関わっていくかは、教師自身の課題意識であります。

○ 地域の抱える諸問題を、子どもたち自身が自らの課題と考えたり、捉えたりできるよう、教師自身が社会や世界に目を向ける必要がある。 学校の目指す子ども像が具現化するよう、指導する内容や指導法、評価の在り方を、ESDの視点で見直していくことも必要である。

○ 日常的な学習活動にESDが埋もれている。

○ ESDの観点からそれらを振り返ることで，ESDの意識が喚起され，ESDの推進につながる。

○ ESDを推進させるための特別な取組を進めるのではなく，まずは諸活動をESDの観点から振り返り，価値付けることが必要だと思われる。 岡山市からの振り返りや成果の報告要請が，文部科学省からも同様に要請され，提出物が二重になっている。文部科学省からの依頼については，可能であれば各都道府県が取りまとめたもので対応していただきたい。事務的な手続きの煩雑さを解消していくことが，結果としてESDの推進につながっていくと思われる。

○ 複数の担当者で話し合いをしながら活動をすすめていくことが必要である。 校務分掌上の担当者を一人にして、事務仕事をその人に回せばよいという考えでは、書類を迅速に回し、だれがするのかの責任を明確にすることはできるが、意識の向上は全体には広がりにくいのではないかと思われる。

○ 無理のない範囲で、みんなで、気軽にできることから始めること。 ESD の視点から見て、すでに実施している活動を見直す。

○ 無理のない範囲での持続可能な取組としていくことが必要である。 ESDについての教職員間での理解を深めるとともに、活動の様子を広く情報発信していくことが必要である。

○ 目的や活動の意義の共通理解。

○ 問題意識 地域・家庭の協力 一緒に社会をつくっていこうという視点

○ 余剰時間・・・指導要領の内容を指導する時間を確保しつつESDについて入れ込んでいく時間を確保するのは現状苦しい。 指導者の心の余裕・・・日々の学級・学年・学校が落ち着いてないと指導要領+αであるESDについて考える余裕がない。 ESDのための教材研究をする時間・・・指導要領+αであるESDについて授業に組み込んでいくためには，それ相応の時間が必要になるが，その時間の確保がどこにあるのか疑問である。働き方改革と逆行している感じも受ける。 ※上記について，本校ができていないということではないです。あくまでも推進していく上で，必要であると思われることです。

○ ESDに関する研修を行う。

○ ESD活動のための潤沢な予算が必要です。内容が重複するような提出書類も多くあるように感じます。報告書類を減らし、ESDのための教材研究や準備打ち合わせ等の時間が必要です。

○ ESD担当が、ESDについての研修会などを行い、ESDの考え方を共有していく必要がある。まずは、「ESDとは何か」について研修会を行い、総合的な学習の時間の見直しをする。各教科、横断的な計画をたてる必要がある。

平成29年度ユネスコスクール推進校振り返りシート　　岡山市立学校

【ESDの取組の充実をとおした「自立する子ども」の育成について】

①　児童生徒の学びの高まりをめざすために，どのように進めてきましたか。

（岡山型一貫教育の観点から）※複数回答可

- ☐ 中学校区の学校間で，学校段階を越えた9年間の学習内容と児童生徒に付けたい資　質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー等）を作成して取り組んだ。
- ☐ 自校で，各教科等の横断的な学習内容と児童生徒に付けたい資質・能力が分かるような計画表（ESDカレンダー等）を作成して取り組んだ。
- ☐ 中学校区の学校間で，ESDの取組を中心とした授業公開を実施した。
- ☐ 中学校区の学校間で，ESDの取組について情報交換の場を設けた。
- ☐ 進め方が分からないため，実施していない。
- ☐ 必要感がないため，実施していない。
- ☐ 実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。
- ☐ その他（　　）

②　児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。

（地域と協働した取組の観点から）※複数回答可

- ☐ ESDの取組についてESD推進協議会や学校運営協議会等で，協議の場を継続的に設け，実践に生かした。
- ☐ ESDの取組について，公民館を使った発表会を実施するなど，児童生徒が地域に出かけて発信した。
- ☐ 岡山市子どもESDフォーラム等，児童生徒が中学校区等以外の発表の場で発信した。
  （会の名称：　　）
- ☐ 学習発表会等の場で，ESDの取組について児童生徒が発表する場を設け，地域の方に発信した。
- ☐ 学校だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。
- ☐ 地域と連携した取組を実施した。
- ☐ 進め方が分からないため，実施していない。
- ☐ 必要感がないため，実施していない。
- ☐ 実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。
- ☐ その他（　　）

③-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。
※複数回答可

- ☐ 自校が希望して，コンソーシアム事業の団体（岡山大学，ベネッセ，イオン，ハート・オブ・ゴールド，岡山ユニセフ協会，岡山ユネスコ協会，公民館，ESD推進課） やESDコーディネーター，指導課等への照会で実施した。
  （照会した団体等：　　）
- ☐ コンソーシアム事業の団体（岡山大学，ベネッセ，イオン，ハート・オブ・ゴールド，岡山ユニセフ協会，岡山ユネスコ協会，公民館，ESD推進課）やESDコーディネーター，指導課等からの依頼で実施した。
  （依頼があった団体等：　　）
- ☐ 校外の研修会等で教職員が構築したネットワークを使って，直接交渉で実施した。
  （相手先：　　）
- ☐ ユネスコスクール研修会等で得た情報をもとに，市内の学校と交流した。
- ☐ 進め方が分からないため，実施していない。
- ☐ 必要感がないため，実施していない。
- ☐ 実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。
- ☐ その他（　　）

③-2 どのような交流の仕方をしましたか。（交流を行った場合のみ回答してください。）※複数回答可

- ☐ インターネット回線を使ったテレビ会議システムを使った。
- ☐ 手紙やメール，ビデオレターの交換をした。
- ☐ 教員が，相手校を訪問した。
- ☐ 相手校から，教員の訪問があった。
- ☐ 児童生徒が，相手校を訪問した。
- ☐ 相手校から，児童生徒の訪問があった。
- ☐ その他（　　）

【学校内での実施体制について】
④　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。
※複数回答可

- ☐ 学校教育基本計画を作成する際に，教職員間で協議した。
- ☐ 学校教育基本計画を教職員間で共有する際に説明した。
- ☐ 教育課程編成の際に，ESDで育てたい資質や能力について協議した。
- ☐ 職員会議等で，自校のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。
- ☐ 学校便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を，教職員に伝えた。
- ☐ 教職員向けの便り等に，ESDの取組や方向性等について記載し配付した。
- ☐ 校内研修会で，教職員が講師となり，ESDについての研修を実施した。
- ☐ 校内研修会に，外部から講師を招聘して，ESDについての研修を実施した。
  （講師名：　　）
- ☐ ESDについて，学校評価の項目に盛り込み，学校自己評価の際に話し合った。
- ☐ 共有の場は，意識して設けていない。

【ESDの取組から】
⑤　今年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。
＜学校として＞

- ☐ 大変効果的な取組ができ，大変満足している。
- ☐ 効果的な取組ができ，満足している。
- ☐ 効果的な取組ができず，やや不満が残る。

＜担当として＞

- ☐ 大変効果的な取組ができ，大変満足している。
- ☐ 効果的な取組ができ，満足している。
- ☐ 効果的な取組ができず，やや不満が残る。

＜児童生徒の様子から＞

- ☐ 大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。
- ☐ 効果的な取組ができ，満足しているようだ。
- ☐ 効果的な取組ができず，やや不満が残るようだ。
- ☐ 分からない。

⑥　児童生徒，学校，保護者・地域（学校区）等にどのような変化が見られましたか。
※複数回答可
【児童生徒の意識】

- ☐ 持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。
- ☐ 自尊感情が高まってきた。
- ☐ コミュニケーション能力が向上した。
- ☐ 人間性が豊かになった。
- ☐ ESD活動を通してはぐくんだ価値観（人間の尊重，多様性の尊重，非排他性，機会均等，環境の尊重等）をもち続けることができるようになった。
- ☐ 地域に貢献したいという気持ちをもつことができるようになった。
- ☐ 地域に対する愛着を抱くようになった。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

【学校】

- ☐ 先生方自身が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。
- ☐ ESDの実践を通して，先生方自身の成長につながった。
- ☐ ESDに教科横断的に取り組むことができた。
- ☐ 同僚との協力，協働関係が強化，促進された。
- ☐ 地域との関係が深まってきた。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

【保護者】

- ☐ 保護者が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。
- ☐ 積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。
- ☐ ESDの実践を通して保護者自身が学んでいる。
- ☐ 保護者同士のつながりが見られるようになった。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

【地域】

- ☐ 地域の方が持続可能な社会づくりの考え方を自分のものにすることができた。
- ☐ 積極的に学校教育に関わろうとしてくれている。
- ☐ ESDの実践を通して地域の方自身が学んでいる。
- ☐ 地域の人同士のつながりが見られるようになった。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

⑦　今後のESDの取組にあたり，来年度に向けて改善しようとしていることを記入してください。

⑧　ESDを推進していく上で必要だと思われることを記入してください。

２. 公民館調査の概要

調査時期　　2018 年 7 月
調査対象　　担当エリア内にユネスコスクールを抱える公民館、16
館調査項目　　詳細は別紙調査票を参照のこと

調査結果の概要

【ESDの取組の充実をとおした地域住民の学びについて】

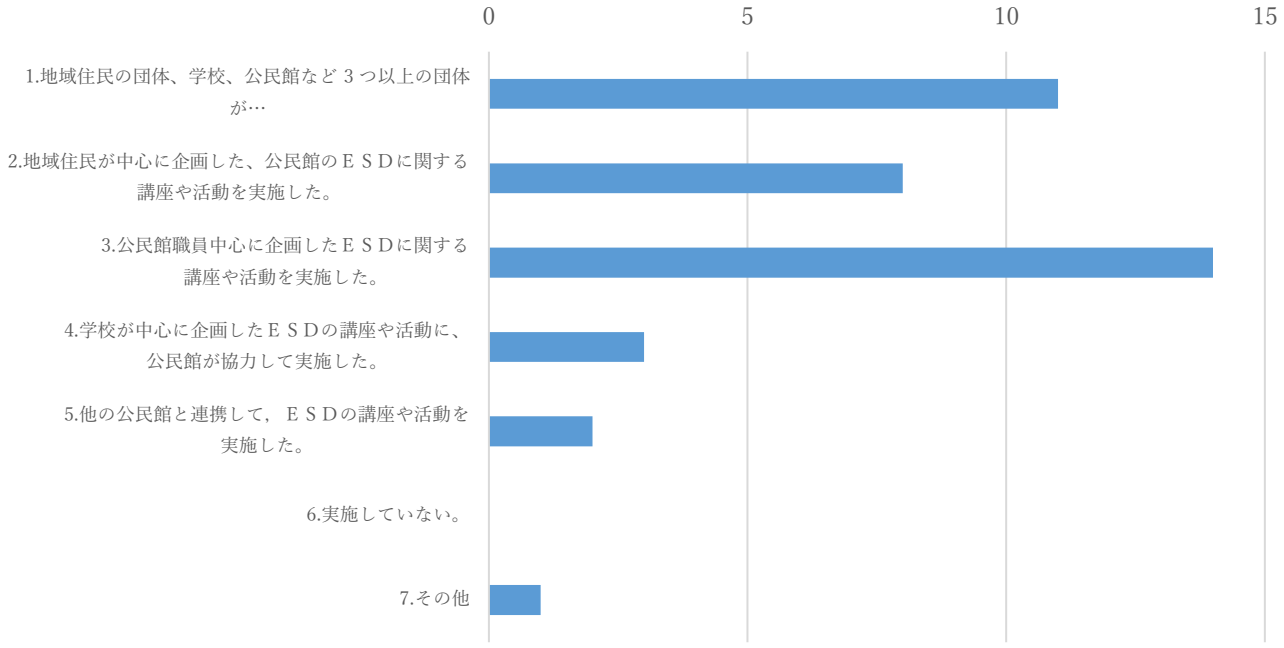
① ESDに関する講座や活動を企画する際に、どのように進めてきましたか。

「公民館職員中心に企画したESDに関する講座や活動を実施した。」（14、87.5%）が最も多く、「地域住民の団体、学校、公民館など 3 つ以上の団体が連携して、ESDに関する講座や活動を実施した。」（11、68.8%）が次いでいる。選択肢とは異なる他の三者の組み合わせによる講座や活動の実施を上げた公民館が 1 つあり、あわせて 12 館（75.0%）が多様な連携による ESD に関する取組みを実施している。

② 貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。

「公民館だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。」（13、81.3%）が最も多く、「ESD の取組について地域のESD推進協議会や公民館運営委員会等で，協議の場を継続的に設け，実践に生かした。」（10、62.5%）が次いでいる。「公民館まつり等の場で，地域住民がESDの取組について発表する機会を設け，発信した。」は、3 館（18.8%）であるが、「その他」の記述内容をみると、公民館のロビーでの掲示等による発信に取り組んでいるところも 3 館（18.8%）あり、あわせるとのべ 6 館で、日常やイベント開催時の来館者に対する情報発信に取り組まれている。

①　ESDに関する講座や活動を企画する際に、どのように進めてきましたか。



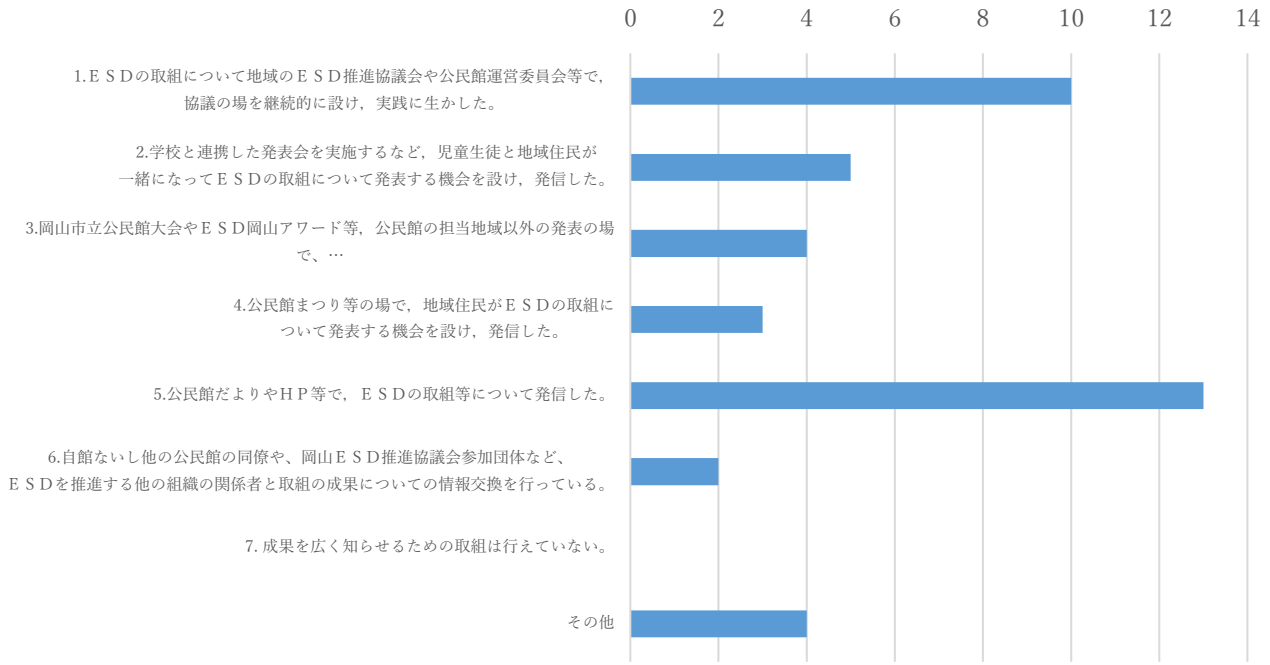
①　ESDに関する講座や活動を企画する際に、どのように進めてきましたか

		度数	パーセント
1.	地域住民の団体、学校、公民館など 3 つ以上の団体が連携してESDに関する講座や活動を実施した。	11	68.8
2.	地域住民が中心に企画した、公民館のESDに関する講座や活動を実施した。	8	50.0
3.	公民館職員中心に企画したESDに関する講座や活動を実施した。	14	87.5
4.	学校が中心に企画したESDの講座や活動に、公民館が協力して実施した。	3	18.8
5.	他の公民館と連携して，ESDの講座や活動を実施した。	2	12.5
6.	実施していない。	0	0.0
7.	その他	1	6.3
			（回答者数16）

7.の記述

○　公民館、講師、地域で企画会を持ち、講座や活動を実施した

② 貴公公民のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。※複数回



② 貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。※複数回答

		度数	パーセント
1.	ESDの取組について地域のESD推進協議会や公民館運営委員会等で協議の場を継続的に設け，実践に生かした。	10	62.5
2.	学校と連携した発表会を実施するなど，児童生徒と地域住民が一緒になってESDの取組について発表する機会を設け，発信した。	5	31.3
3.	岡山市立公民館大会やESD岡山アワード等，公民館の担当地域以外の発表の場で地域住民がESDの取組について発表する機会を設け発信した。	4	25.0
4.	公民館まつり等の場で地域住民がESDの取組について発表する機会を設け発信した。	3	18.8
5.	公民館だよりやHP等でESDの取組等について発信した。	13	81.3
6.	自館ないし他の公民館の同僚や、岡山ESD推進協議会参加団体などESDを推進する他の組織の関係者と取組の成果についての情報交換を行っている。	2	12.5
7.	成果を広く知らせるための取組は行えていない。	0	0.0
8.	その他	4	25.0
			（回答者数16）

3.の「会の名称」
○ 児島湖流域エコウェブフォーラム
○ 食育推進全国大会
○ 神武天皇高島滞在神話伝説を語り伝える
○ 瀬戸町ダルマガエルの会

8.の記述
○ ロビーに常設していた、デジタルフォトフレームで講座の様子を発信した。
○ 公民館のロビーに成果物を提示、また、その成果物を使い地域住民に発表する機会を設けた。

○ 中学校での取り組みをロビー展で地域の人にも知らせた。
○ ESDを視野に入れた事業を実施したが、広く地域住民に広報するまで、その成果が至っていない。また、取り組みの成果を広く知らせるという意識がなかった。

③-1 ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。

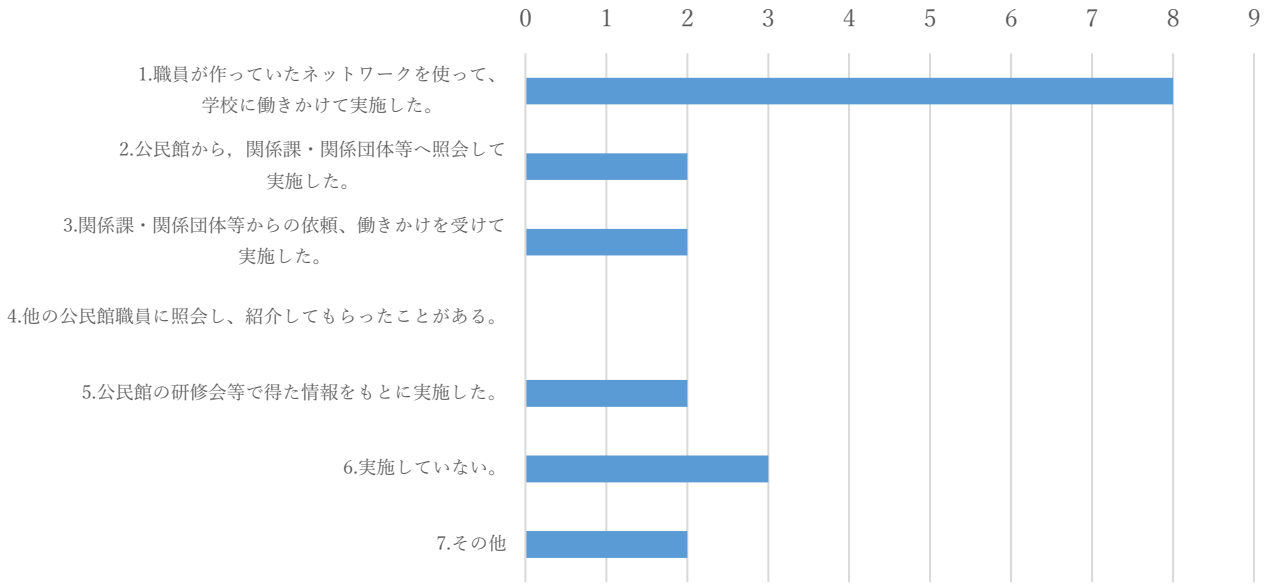
「職員が作っていたネットワークを使って、学校に働きかけて実施した。」（8、50.0%）が最も多い。一方、「実施していない。」を上げた公民館が 3 館（18.8%）ある。連携の機会がない、連携のシーンが想定できないといった声が聞かれた。

③-2 学校以外のESDに係る団体との交流について，どのように進めてきましたか。

「職員が作っていたネットワークを使って、各団体等に働きかけて実施した。」（10、62.5%）が最も多い。

ESD にかかる交流や連携は、職員が作っていたネットワークに依存している場合が半数ないしそれ以上を占めている。公民館職員のネットワーク形成やコーディネート力量が評価できるものの、当該職員が異動等で館を離れることになると、構築されたネットワークの維持、発展が懸念される実態が看取される。

③　-1 ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。



③　-1 ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。

		度数	パーセント
1.	職員が作っていたネットワークを使って、学校に働きかけて実施した。	8	50.0
2.	公民館から関係課・関係団体等へ照会して実施した。	2	12.5
3.	関係課・関係団体等からの依頼、働きかけを受けて実施した。	2	12.5
4.	他の公民館職員に照会し、紹介してもらったことがある。	0	0.0
5.	公民館の研修会等で得た情報をもとに実施した。	2	12.5
6.	実施していない。	3	18.8
7.	その他	2	12.5
			（回答者数16）

2.の「相手先や実施の内容」
○ 新庄村教育委員会
○ 神武展天皇に関わる団体、高島サミット

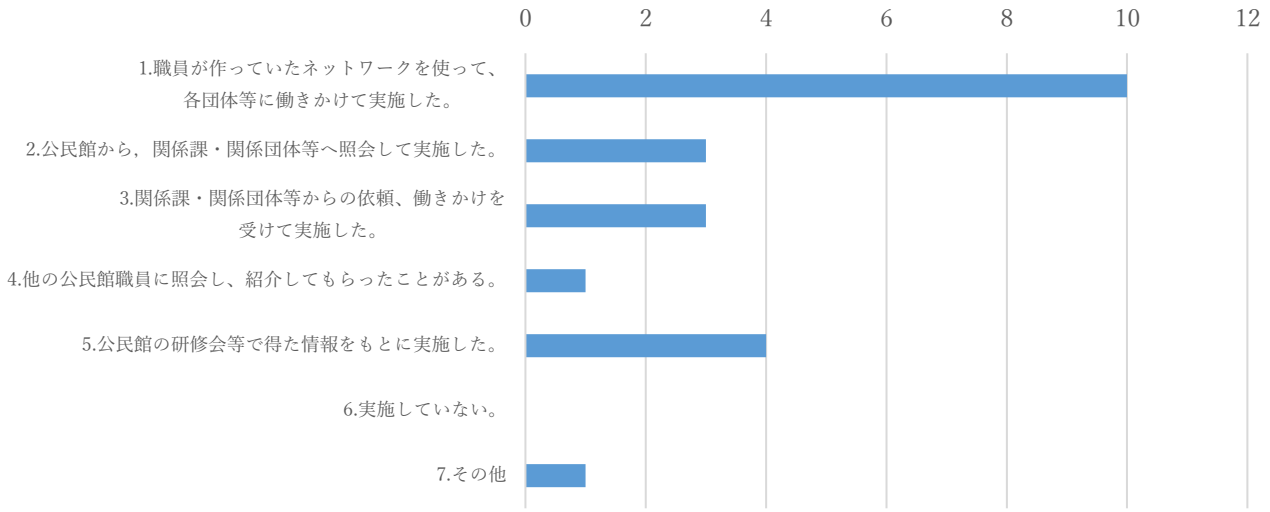
3.の「依頼があった団体等」
○ 上南中学校

3.の「相手先や実施の内容」
○ 地域調査（地域の歴史などを地域の方に聞き取り）

6.の理由
○ 館内の千種小学校でも ESD の取り組を行っているが、機会が無く現状、瀬戸公民館内の学校を含め、瀬戸町内のどの学校とも連携していない。
○ 公民館で実施したESDを特に意識した事業について、地域の学校と交流したり連携をしたりする場面が想定できなかったから。
○ 地域諸団体との企画運営でて手いっぱいで、学校との連携はとれていないが、公民館が主催する講座のチラシ等の配布についてはお願いしている。

7.の記述
地域住民の団体発信で学校と連携
H29 に関しては、学校から依頼があり、地域の方と一緒に授業で話をした

③　-2 学校以外のESDに係る団体との交流について，どのように進めてきましたか。



③-2 学校以外のESDに係る団体との交流について，どのように進めてきましたか。

		度数	パーセント
1.	職員が作っていたネットワークを使って、各団体等に働きかけて実施した。	10	62.5
2.	公民館から，関係課・関係団体等へ照会して実施した。	3	18.8
3.	関係課・関係団体等からの依頼、働きかけを受けて実施した。	3	18.8
4.	他の公民館職員に照会し、紹介してもらったことがある。	1	6.3
5.	公民館の研修会等で得た情報をもとに実施した。	4	25.0
6.	実施していない。	0	0.0
7.	その他	1	6.3
			（回答者数16）

2.の「照会した団体等」
○ 岡山市環境保全課
○ ESD推進課

2.の「相手先や実施の内容」
○ 新庄村教育委員会

3.の「依頼があった団体等」
○ 環境保全課・淡水魚研究会
○ 日中友好協会
○ ESD推進課、岡山市教育委員会のESDコーディネーター

3.の「相手先や実施の内容」
○ 建設廃材等の産業廃棄物のリサイクル施設見学(講座は 30 年度に実施)
○ 生き物調査等
○ 中国残留日本人孤児帰国者と水餃子作りで交流

3.の「相手先」
○ 藤クリーン株式会社藤田リサイクルセンター

7.の記述
○ 公民館ボランティアグループ花っ子クラブが、公民館の花壇に玉ねぎやさつまいもを植え管理してくれている。年2回実施する感謝祭の企画運営を同クラブと連携し行っている。

【ESDに係る公民館内の実施体制について】

④ 公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。

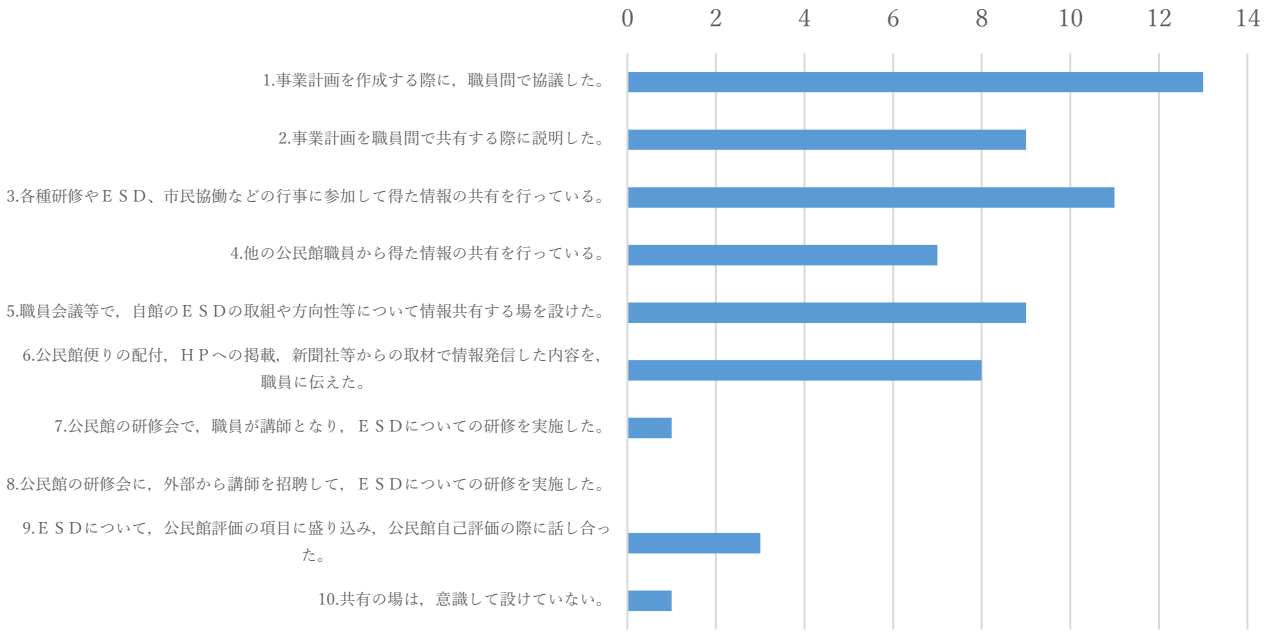
「事業計画を作成する際に，職員間で協議した。」（13、81.3%）が最も多く、「各種研修やESD、市民協働などの行事に参加して得た情報の共有を行っている。」（11、68.8%）、「事業計画を職員間で共有する際に説明した。」（9、56.3%）、「職員会議等で，自館のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。」（9、56.3%）と次いでいる。一方、「ESDについて，公民館評価の項目に盛り込み，公民館自己評価の際に話し合った。」はのべ 3 館（18.8%）となっており、事業計画策定段階での協議が中心で、取組み状況を事後に評価し省察する活動は、一部の館にとどまっている。

【ESDの取組を振り返って】

⑤ 平成 29 年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。

公民館として、担当として、地域住民の様子のいずれの観点からも、効果的な取組みができ、満足しているとの回答が、75%となっている。

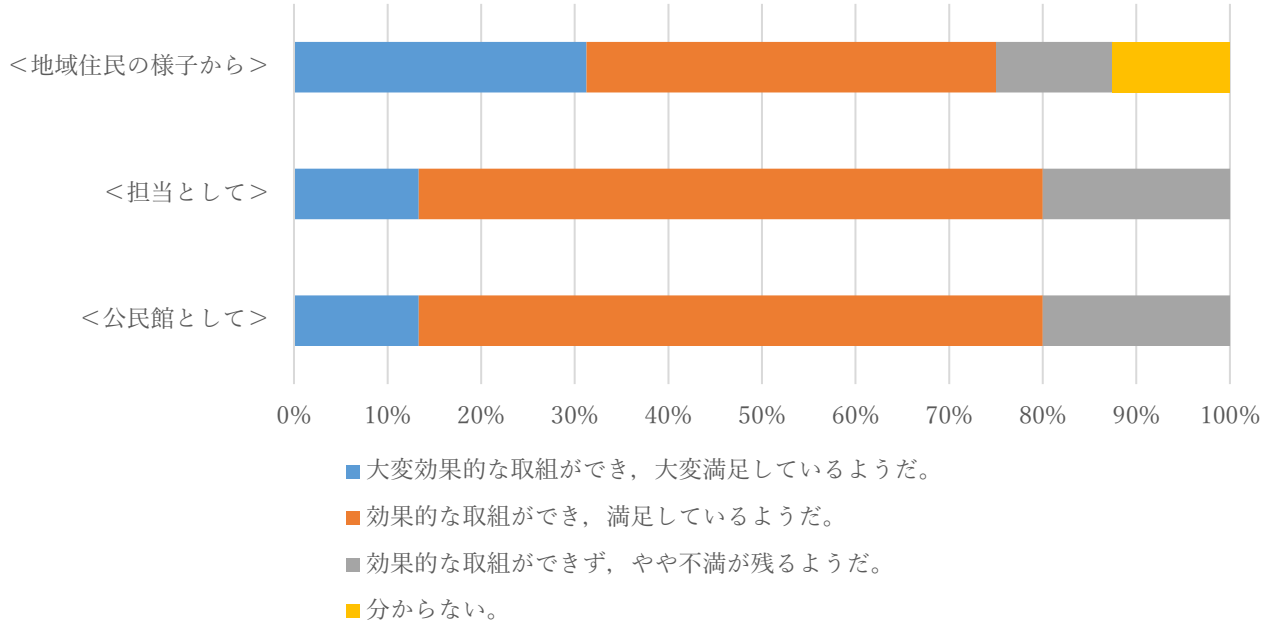
④　公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。※複数回答可



④　公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。※複数回答可

		度数	パーセント
1.	事業計画を作成する際に，職員間で協議した。	13	81.3
2.	事業計画を職員間で共有する際に説明した。	9	56.3
3.	各種研修やESD、市民協働などの行事に参加して得た情報の共有を行っている。	11	68.8
4.	他の公民館職員から得た情報の共有を行っている。	7	43.8
5.	職員会議等で，自館のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。	9	56.3
6.	公民館便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した　内容を職員に伝えた。	8	50.0
7.	公民館の研修会で，職員が講師となり，ESDについての研修を実施した。	1	6.3
8.	公民館の研修会に，外部から講師を招聘して，ESDについての研修を実施した。	0	0.0
9.	ESDについて，公民館評価の項目に盛り込み，公民館自己評価の際に話し合った。	3	18.8
10.	共有の場は，意識して設けていない。	1	6.3
			（回答者数16）

⑤　平成29年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。



⑤　平成29年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。

			度数	パーセント
公民館として	1.	大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。	2	12.5
	2.	効果的な取組ができ，満足している。	10	62.5
	3.	効果的な取組ができず，やや不満が残る。	3	18.8
担当として	4.	大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。	2	12.5
	5.	効果的な取組ができ，満足している。	10	62.5
	6.	効果的な取組ができず，やや不満が残る。	3	18.8
地域住民の様子から	7.	大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。	5	31.3
	8.	効果的な取組ができ，満足している。	7	43.8
	9.	効果的な取組ができず，やや不満が残るようだ。	2	12.5
	10.	分からない。	2	12.5

（回答者数16）

⑥ ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。

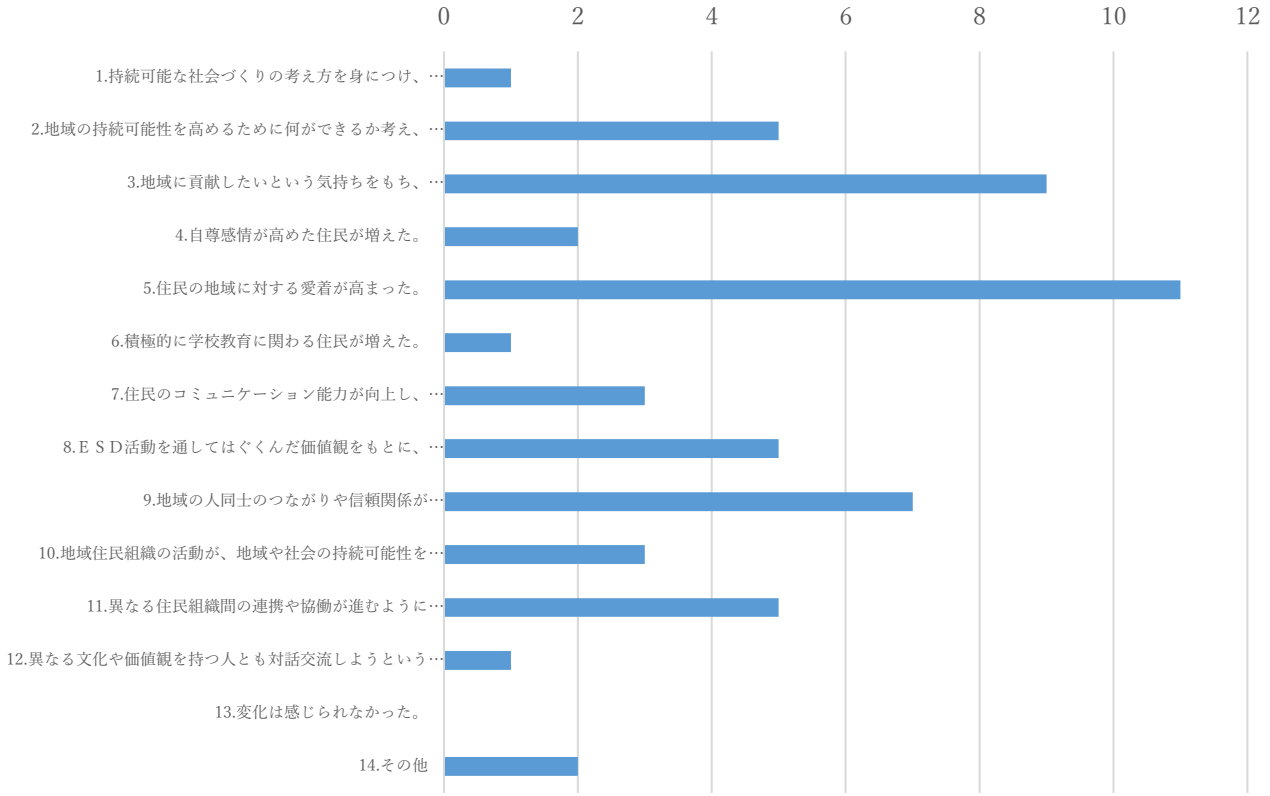
【地域住民】

「住民の地域に対する愛着が高まった。」（11、68.8%）が最も多く、地域に貢献したいという気持ちをもち、行動する住民が増えた。」（9、56.3%）が次いでいる。

【公民館職員】

「公民館の事業をESDの視点を活かして企画・実施できるようになった。」（13、81.3%）が最も多く、
「地域との関係が深まり、信頼関係が強くなった。」（10、62.5%）、「コーディネーターとしての役割を自覚し、学校や地域の諸団体をつなぐことを自らの仕事だと認識するようになった。」（9、56.3%）が次いでいる。

⑥　ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。
【地域住民】



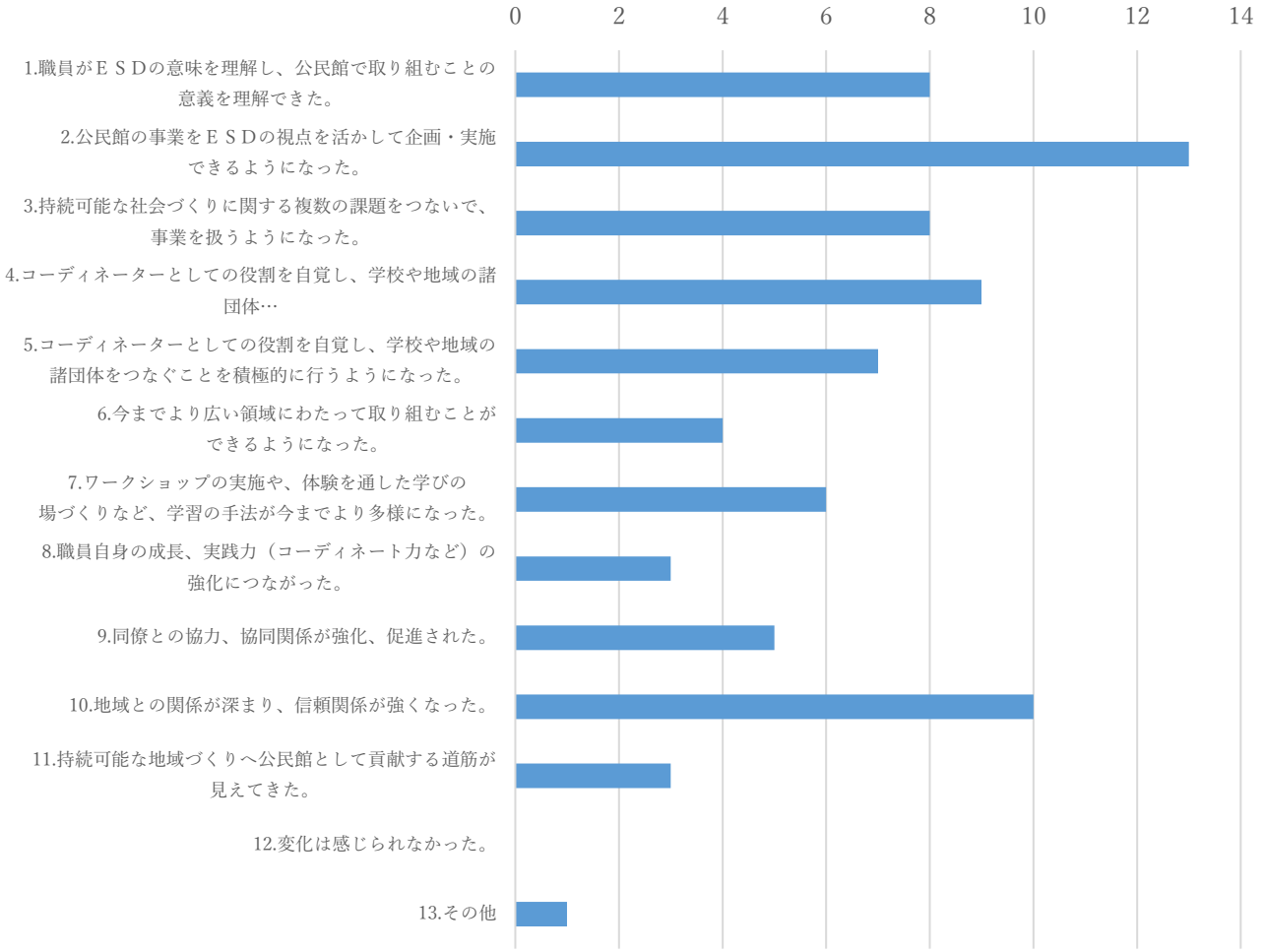
⑥　ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。
【地域住民】

		度数	パーセント
1.	持続可能な社会づくりの考え方を身につけ、変容をとげた住民が増えた。	1	5.3
2.	地域の持続可能性を高めるために何ができるか考え、行動する住民が増えた。	5	31.3
3.	地域に貢献したいという気持ちをもち行動する住民が増えた。	9	56.3
4.	自尊感情が高めた住民が増えた。	2	12.5
5.	住民の地域に対する愛着が高まった。	11	68.8
6.	積極的に学校教育に関わる住民が増えた。	1	6.3
7.	住民のコミュニケーション能力が向上し、他の人と力を合わせて取り組もうとする人が増えた。	3	18.8
8.	ESD活動を通してはぐくんだ価値観をもとに、他の人に伝えたり、人や活動をつなぐ役割を果たす人が出てきた。	5	31.3
9.	地域の人同士のつながりや信頼関係が豊かになった。	7	43.8
10.	地域住民組織の活動が、地域や社会の持続可能性を意識したものに変わった。	3	18.8
11.	異なる住民組織間の連携や協働が進むようになった。	5	31.3
12.	異なる文化や価値観を持つ人とも対話交流しようという機運が地域で高まった。	1	6.3
13.	変化は感じられなかった。	0	0.0
14.	その他	2	12.5

（回答者数16）

14.の記述
○　環境分野以外へも広げていきたい。
○　行動する住民はいるが、それが公民館の取り組みによるものかどうか、増えていると言えるかどうかは不明

⑥　ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。
【公民館職員】



⑥　ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。
【公民館職員】

		度数	パーセント
1.	職員がESDの意味を理解し、公民館で取り組むことの意義を理解できた。	8	50.0
2.	公民館の事業をESDの視点を活かして企画・実施できるようになった。	13	81.3
3.	持続可能な社会づくりに関する複数の課題をつないで事業を扱うように　なった。	8	50.0
4.	コーディネーターとしての役割を自覚し学校や地域の諸団体をつなぐことを自らの仕事だと認識するようになった。	9	56.3
5.	コーディネーターとしての役割を自覚し、学校や地域の諸団体をつなぐ　ことを積極的に行うようになった。	7	43.8
6.	今までより広い領域にわたって取り組むことができるようになった。	4	25.0
7.	ワークショップの実施や、体験を通した学びの場づくりなど、学習の手法が今までより多様になった。	6	37.5
8.	職員自身の成長、実践力（コーディネート力など）の強化につながった。	3	18.8
9.	同僚との協力、協同関係が強化、促進された。	5	31.3
10.	地域との関係が深まり、信頼関係が強くなった。	10	62.5
11.	持続可能な地域づくりへ公民館として貢献する道筋が見えてきた。	3	18.8
12.	12.変化は感じられなかった。	0	0.0
13.	その他	1	6.3

（回答者数16）

13.の記述
○　環境分野以外へも広げていきたい。

⑦ 今後の ESD の取組にあたり，改善しようとしていることを記入してください。

○ 学校との連携を模索したい。

○ ESDの活動を目に見える形で残し、広報していく。

○ さまざまな事業や活動で参加者がESD的視点で考え、行動するよう支援する。

○ 環境分野中心での取り組みしかできていなかったので、ESDの視点を活かした取り組みを他の分野へも広げていきたい。

○ 現状、地域の一部のボランティア団体としか連携していない。ESDの取組にあたっては、学校や公民館以外の行政、地域団体など多様な主体の連携、協力が必要である。地域の課題を把握し、課題解決のために様々な団体と協力しながら積極的に対応していくこと。

○ 広がりがあり、多くの人が集まる企画を検討していきたい。地域の歴史や伝統的な食べ物を共通認識していきたい。

○ 持続可能な社会づくりに関する複数の課題をつないで、事業を企画すること。また、公民館が地域のコーディネーターとして、学校や地域の諸団体をつなぐことを積極的に行うこと。

○ 多様な団体・立場の人たちを活動に巻き込んでいく。

○ 地域の人に地域の宝である伝説・史跡探索を積極的に推進していく。

○ 中・長期計画の大切さ。地域事性によるテーマの選定特になし

○ 平成29年度に、「こうじょがいっぱいカルタ」（興除公民館のESD 成果物）を小中学校と高齢者サロンへ配布した。その後高齢者サロンでは折に触れて活用してもらえているようだが、学校ではどの程度活用されているかが不明である。先日行われたユネスコスクールのヒアリングでも発言させていただいたが、先生方とも相談しながら、学校での学習に取り入れやすいよう図っていきたい。

⑧ ESD を推進していく上で必要だと思われることを記入してください。（自由記述）

○ テーマの選定、地域の団体・学校園・福祉施設・住民との関係づくり

○ 学校だけでなく、地域のいろいろな団体や人との良好な関係。 推進に関わる人（職員等）が幅広く確かなESDの視点を持っていること。

○ 管内の小中学校、保育園、幼稚園、町内会、老人クラブ、関係諸機関、関係団体等との連携を保ち、地域課題の解決や地域の良さの再発見等に取り組んでいくこと。

○ 企画に可能な限り多くの団体や、地域で活動している人を加えて実施する。

○ 公民館職員間のESDに対する意識の差をいまだに感じる。研修の機会は十分に与えられてきたと思うが、個々の問題だとしたら公民館として大きな問題だと思う。異動などで職員が変わってもその地域で安定してESDの取り組みを継続的発展的に進めていくことができるように、自分自身も研鑽を積んでいきたいと思う。

○ 高齢者世代・保護者世代・子ども世代などが、世代間でふれあいながら地域の歴史等を伝え・継承していく姿は、現在も学校現場で行われている。今後は子ども世代の中で、地域の大切なことを伝え・継承していくことを考えても良いのではないかと思う。（例：中高生から小学生への伝達 等）

○ 職員自身がもっと知識や実践力を身に着け、企画・実施していく必要があると思います。また、市全体としても引き続き「ESD」を推進していることをもっとしっかりと周知しつつ、一般的に浸透し始めている「SDGs」を活用するなど、市民の目に留まり受け入れ易い状況をつくっていく必要もあると思います。

○ 新人の人も含め職員がESDを正しく理解し、実用できるようになることも必要だと思います。

○ 多様な団体・立場の人たちを活動に携われるような仕組みづくり。

○ 特になし

○ ESDという言葉を耳にする機会は多いが、それが何かわからない人もまだ多い。

○ 積極的にPRし、活動する人を増やしていく必要がある。

⑨ ESD を学校と連携・協力して推進していく上で必要だと思われることを記入してください。（自由記述）

○ 学校の先生との交流。

○ 学校行事・地域行事との絡みから、お互いが無理なく、協力し合える日程の調整を行うこと。

○ 充分に話し合いを重ね、事業等に関して共通理解すること。

○ 公民館、学校、それぞれの特性を活かした広報（予告・報告等）を行い、ESDを広めること。

○ お互いにとってメリットのある活動だと協力しやすい。

○ お互いの取り組みの内容や、到達したい目標や課題の共有

○ ヒアリングの時には、すでに内容や講師などが決まっているので、計画段階で関わることが出来ればと思うが、学校の多忙さを考えると…難しい？

○ 学校としてESDに対してどのような姿勢で取り組もうとしているのかを公民館側が知り、学校側にも公民館のESDの取り組みを伝え、同じ地域の中でどう連携し進めていくのかを相談する機会がとても重要だと思う。 ユネスコスクールのヒアリングは、そうした意味で大変効果的であった。（公民館も事業の担当職員が出席するのが望ましいと思う）定期的に機会が設けられるといいが先生方はとてもお忙しいので、担当の先生と直接やりとりをしながら連携協力していこうと考えている。

○ 学校の閉鎖性・保守性の打破

○ 学校教育と社会教育の連携については、継続的・発展的に行えるよう、できるだけ学校の年間計画に位置付けて、事前の調整や準備等を行うことが必要。また、職員の異動や配置換えなどによって年度ごとにESDの担当者が変わることがあるため、前任者からの引き継ぎを密に行い、関係性や流れが途切れないように注意する必要がある。

○ 教員の働き方改革や部活動の活動日の見直し等で、開催日の相談が一段と難しくなっている。日頃から忌憚のない情報交換が行えるような関係づくりが必要。

○　公民館で実施する取り組みに対して、学校に協力連携を依頼するのか、学校が行う取り組に公民館が協力するのか。また、公民館と学校で地域の共通の課題を見つけ、事業を実施するのか等、今まで連携していなかったことから、まず、双方のESDに対する考えを気軽に話し合える場を持つことから始める必要がある。

○　公民館と学校が本業以外のことにも協力できる余裕を持てるような人員や経費の支援が必要だと思います。

○　情報の共有やお互いの成果をそれぞれの場で活かしあえるとよいと思います。

○　特になし

○　非常に多忙な学校現場に、社会教育の立場からアプローチしていくためには、早い時期から学校の先生方と密接な関係作りを行う必要があると考える。また、学校で取り組んでいるESD　事業の発表を、公民館を会場に行い、地域の一般市民に披露することも、ESDの活動を地域へ広める一助となることと思う。

○　防災教育を媒介として地域の10学校園と連携・協力を進め、5年目になる。息の長い取り組みをするうえで、公民館として丁寧に啓発していくこと等、しっかり学校園と協議する場を多くしていくことが、理解につながると感じている。

ユネスコスクール認定学区におけるESDの取組に関するアンケート
（公民館対象調査票）

※本アンケートにおける「ESDの講座や活動」は、公民館の重点7分野（共生、環境、健康、男女共同参画、子育て、高齢者、安全安心）に関する講座や活動、及び、各公民館でESD事業として位置づけしている講座や活動、及び、ユネスコスクールの各校がESDとして取組んでいる授業や活動を指すものとして回答してください。

※本アンケートは、平成29年度の取組をもとにご回答いただく項目が含まれています。職員の異動があり、状況がわからない場合は、以前の職員の方にご確認の上、ご回答ください。

※ユネスコスクールの各校には、学校用のアンケートを実施しています。

ご回答者

公民館名	
ご回答者	

回答期限　平成 30 年 7 月 17 日（火）

ご回答いただいたアンケートは、電子メールで、ESD推進課へ送付してください。

送付先：esd@city.okayama.lg.jp

公民館職員対象

※各設問の該当する□に、チェック（■）をしてください。
【ESDの取組の充実をとおした地域住民の学びについて】

① ESDに関する講座や活動を企画する際に、どのように進めてきましたか。 ※複数回答可

□ 地域住民の団体、学校、公民館など 3 つ以上の団体が連携して、ESDに関する講座や活動を実施した。

□ 地域住民が中心に企画した、公民館のESDに関する講座や活動を実施した。

□ 公民館職員中心に企画したESDに関する講座や活動を実施した。

□ 学校が中心に企画したESDの講座や活動に、公民館が協力して実施した。

□ 他の公民館と連携して，ESDの講座や活動を実施した。

□ 実施していない。

⇒その理由（ ）

□ その他（ ）

② 貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。※複数回答可 （ ）内は、主なものをご記入ください。

□ ESDの取組について地域のESD推進協議会や公民館運営委員会等で，協議の場を継続的に設け，実践に生かした。

□ 学校と連携した発表会を実施するなど，児童生徒と地域住民が一緒になってESDの取組について発表する機会を設け，発信した。

□ 岡山市立公民館大会やESD岡山アワード等，公民館の担当地域以外の発表の場で，地域住民がESDの取組について発表する機会を設け，発信した。

（会の名称： ）

□ 公民館まつり等の場で，地域住民がESDの取組について発表する機会を設け，発信した。

□ 公民館だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。

□ 自館ないし他の公民館の同僚や、岡山ESD推進協議会参加団体など、ESDを推進する他の組織の関係者と取組の成果についての情報交換を行っている。

□ 成果を広く知らせるための取組は行えていない

⇒その理由（ ）

□ その他（ ）

③ −1 ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。
※複数回答可（　　）内は、主なものをご記入ください。

☐ 職員が作っていたネットワークを使って、学校に働きかけて実施した。

☐ 公民館から，関係課・関係団体（教育委員会各課、ESD推進課、市民協働企画総務課（ESD・市民協働推進センター含む）、岡山市教育委員会のESDコーディネーター、岡山ESD推進協議会参加団体（大学、NPO、企業など））等へ照会して実施した。

（照会した団体等：　　）

（相手先や実施の内容：　　）

☐ 関係課・関係団体（教育委員会各課、ESD推進課、市民協働企画総務課（ESD・市民協働推進センター含む）、岡山市教育委員会のESDコーディネーター、岡山ESD推進協議会参加団体（大学、NPO、企業など））等からの依頼、働きかけを受けて実施した。

（依頼があった団体等：　　）

（相手先や実施の内容：　　）

（相手先：　　）

☐ 他の公民館職員に照会し、紹介してもらったことがある。

☐ 公民館の研修会等で得た情報をもとに実施した。

☐ 実施していない。

⇒その理由（　　）

☐ その他（　　）

③−2 学校以外のESDに係る団体との交流について，どのように進めてきましたか。
※複数回答可（　　）内は、主なものをご記入ください。

☐ 職員が作っていたネットワークを使って、各団体等に働きかけて実施した。

☐ 公民館から，関係課・関係団体（教育委員会各課、ESD推進課、市民協働企画総務課（ESD・市民協働推進センター含む）、岡山市教育委員会のESDコーディネーター、岡山ESD推進協議会参加団体（大学、NPO、企業など））等へ照会して実施した。

（照会した団体等：　　）

（相手先や実施の内容：　　）

☐ 関係課・関係団体（教育委員会各課、ESD推進課、市民協働企画総務課（ESD・市民協働推進センター含む）、岡山市教育委員会のESDコーディネーター、岡山ESD推進協議会参加団体（大学、NPO、企業など））等からの依頼、働きかけを受けて実施した。

（依頼があった団体等：　　）

（相手先や実施の内容：　　）

（相手先：　　）

☐ 他の公民館職員に照会し、紹介してもらったことがある。

☐　公民館の研修会等で得た情報をもとに実施した。

☐　実施していない。

⇒その理由（　　）

☐　その他（　　）

【ESDに係る公民館内の実施体制について】

④　公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。※複数回答可

☐　事業計画を作成する際に，職員間で協議した。

☐　事業計画を職員間で共有する際に説明した。

☐　各種研修やESD、市民協働などの行事に参加して得た情報の共有を行っている。

☐　他の公民館職員から得た情報の共有を行っている。

☐　職員会議等で，自館のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。

☐　公民館便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を，職員に伝えた。

☐　公民館の研修会で，職員が講師となり，ESDについての研修を実施した。

☐　公民館の研修会に，外部から講師を招聘して，ESDについての研修を実施した。

（講師名：　　）

☐　ESDについて，公民館評価の項目に盛り込み，公民館自己評価の際に話し合った。

☐　共有の場は，意識して設けていない。

【ESDの取組を振り返って】

⑤　平成 29 年度のESDの取組を振り返っての感想を，それぞれ一つずつ選んでください。

＜公民館として＞

☐　大変効果的な取組ができ，大変満足している。

☐　効果的な取組ができ，満足している。

☐　効果的な取組ができず，やや不満が残る。

＜担当として＞

☐　大変効果的な取組ができ，大変満足している。

☐　効果的な取組ができ，満足している。

☐　効果的な取組ができず，やや不満が残る。

＜地域住民の様子から＞

☐　大変効果的な取組ができ，大変満足しているようだ。

☐　効果的な取組ができ，満足しているようだ。

☐　効果的な取組ができず，やや不満が残るようだ。

☐　分からない。

⑥　ESDの取組によって地域住民、公民館職員にどのような変化が見られましたか。 ※複数回答可

【地域住民】

- ☐ 持続可能な社会づくりの考え方を身につけ、変容をとげた住民が増えた。
- ☐ 地域の持続可能性を高めるために何ができるか考え、行動する住民が増えた。
- ☐ 地域に貢献したいという気持ちをもち、行動する住民が増えた。
- ☐ 自尊感情が高めた住民が増えた。
- ☐ 住民の地域に対する愛着が高まった。
- ☐ 積極的に学校教育に関わる住民が増えた。
- ☐ 住民のコミュニケーション能力が向上し、他の人と力を合わせて取り組もうとする人が増えた。
- ☐ ESD活動を通してはぐくんだ価値観をもとに、他の人に伝えたり、人や活動をつなぐ役割を果たす人が出てきた。
- ☐ 地域の人同士のつながりや信頼関係が豊かになった。
- ☐ 地域住民組織の活動が、地域や社会の持続可能性を意識したものに変わった。
- ☐ 異なる住民組織間の連携や協働が進むようになった。
- ☐ 異なる文化や価値観を持つ人とも対話交流しようという機運が地域で高まった。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

【公民館職員】

- ☐ 職員がESDの意味を理解し、公民館で取り組むことの意義を理解できた。
- ☐ 公民館の事業をESDの視点を活かして企画・実施できるようになった。
- ☐ 持続可能な社会づくりに関する複数の課題をつないで、事業を扱うようになった。
- ☐ コーディネーターとしての役割を自覚し、学校や地域の諸団体をつなぐことを自らの仕事だと認識するようになった。
- ☐ コーディネーターとしての役割を自覚し、学校や地域の諸団体をつなぐことを積極的に行うようになった。
- ☐ 今までより広い領域にわたって取り組むことができるようになった。
- ☐ ワークショップの実施や、体験を通した学びの場づくりなど、学習の手法が今までより多様になった。
- ☐ 職員自身の成長、実践力（コーディネート力など）の強化につながった。
- ☐ 同僚との協力、協同関係が強化、促進された。
- ☐ 地域との関係が深まり、信頼関係が強くなった。
- ☐ 持続可能な地域づくりへ公民館として貢献する道筋が見えてきた。
- ☐ 変化は感じられなかった。
- ☐ その他（　　）

⑦　今後のESDの取組にあたり，改善しようとしていることを記入してください。（自由記述）

⑧　ESDを推進していく上で必要だと思われることを記入してください。（自由記述）

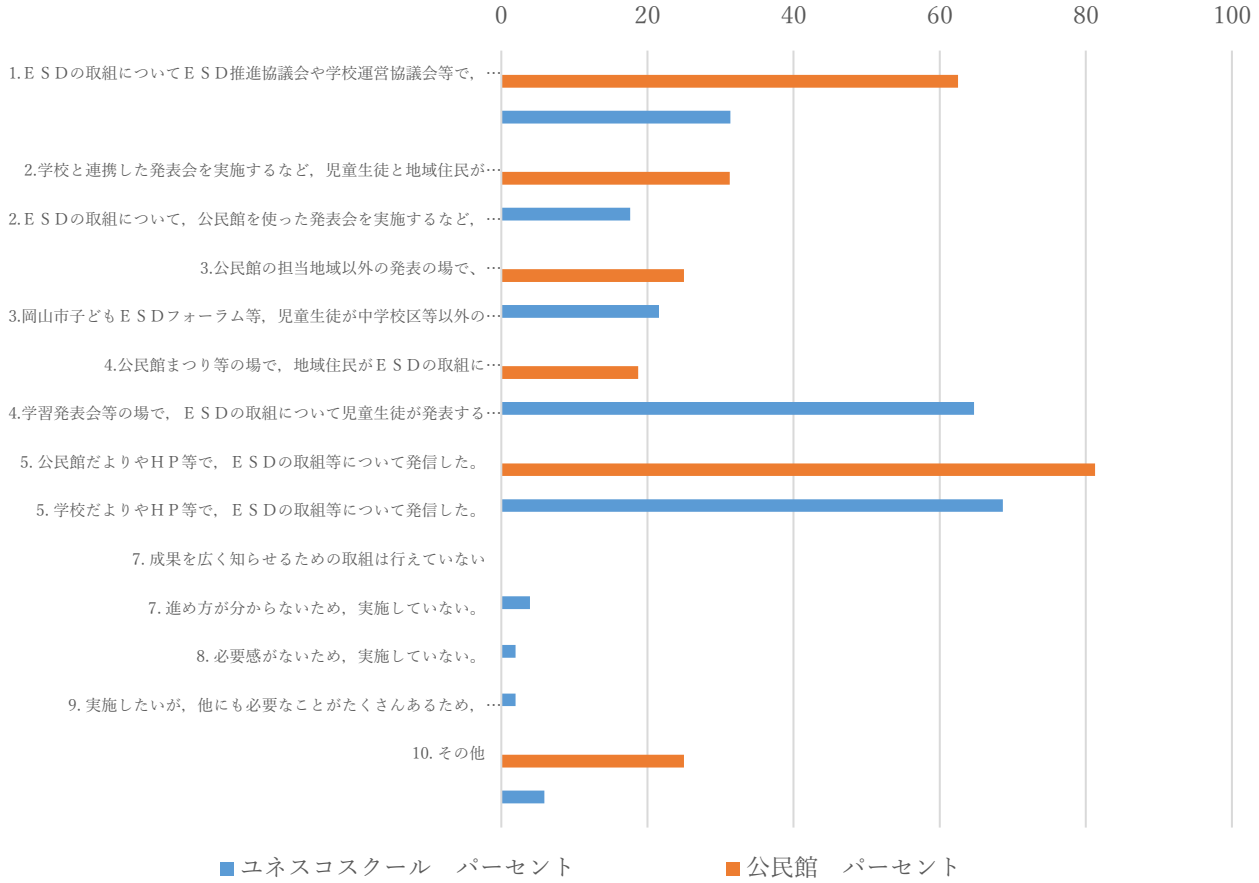
⑨　ESDを学校と連携・協力して推進していく上で必要だと思われることを記入してください。（自由記述）

３．ユネスコスクール調査と公民館調査との結果の比較

【ESDの取組やその成果を広めることについて】
学校②　児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）
公民館②　貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。

「学校だより（公民館だより）やHP等で，ESDの取組等について発信した。」は、学校、公民館ともに積極的に取り組まれている（学校：81.3%、公民館：68.6%）。
「学習発表会等の場で，ESDの取組について児童生徒が（公民館まつり等の場で，地域住民が）発表する場を設け，地域の方に発信した。」は、学校での取組みが卓越している（学校：64.7%、公民館：18.8%）。
「ESDの取組について地域のESD推進協議会や公民館運営委員会等（ESD推進協議会や学校運営協議会等）で，協議の場を継続的に設け，実践に生かした。」は、公民館での取組みが卓越している（学校：31.4%、公民館：62.5%）。
活動の情報発信は、学校、公民館ともに「だより」を通して熱心に行われ、学習成果の披露は、学校のほうが熱心に取り組まれており、継続した活動状況の情報共有や協議は、公民館のほうが熱心に取り組まれている。

学校②　　児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）
公民館②　貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。※複数回答可



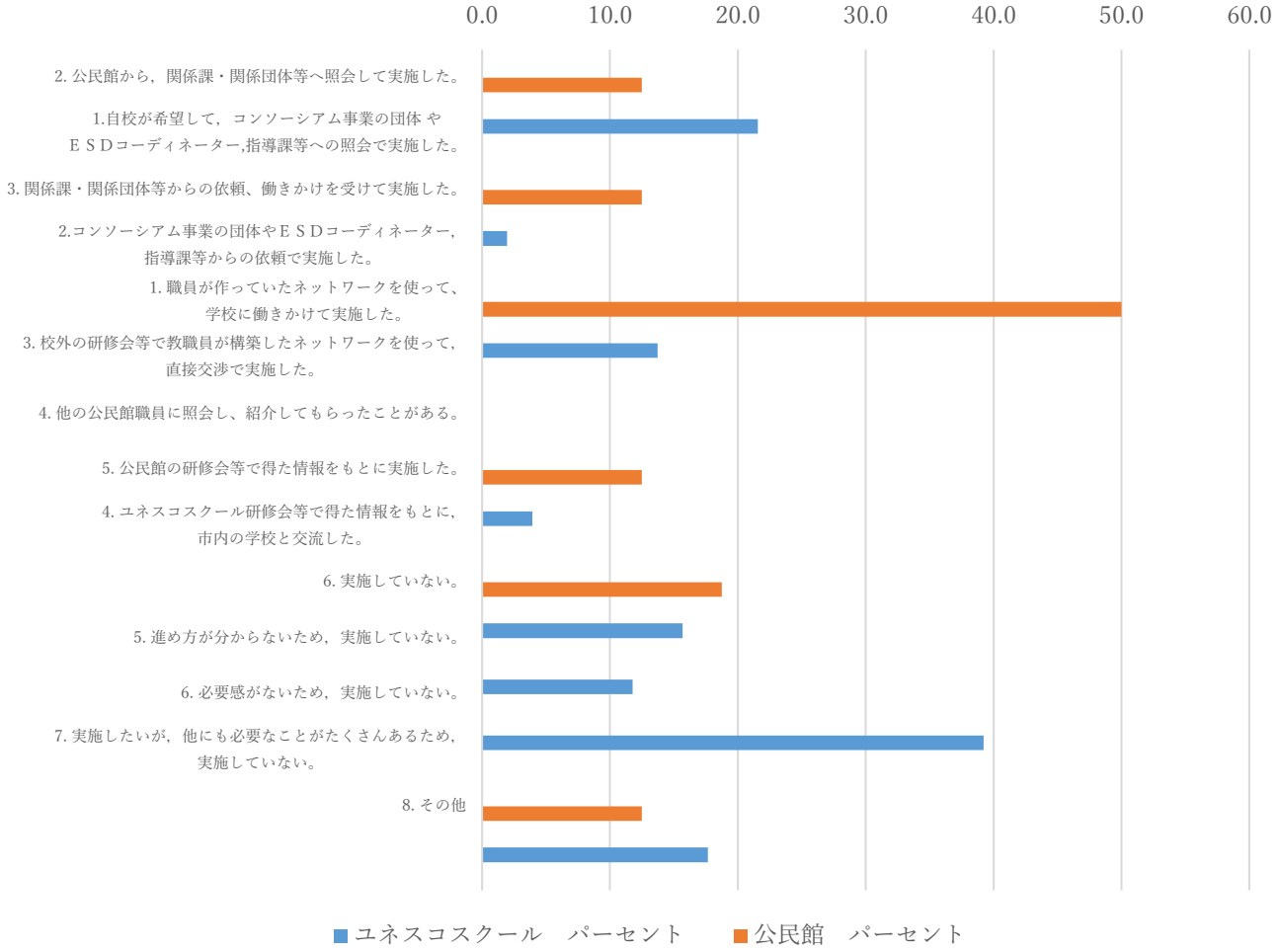
学校②　　児童生徒の学びの広がりをめざすために，どのように進めてきましたか。（地域と協働した取組の観点から）
公民館②　貴公民館のESDの取組の成果を広く知らせるために，どのような取組を進めてきましたか。※複数回答可

		ユネスコスクール 度数	パーセント	公民館 度数	パーセント
1.	ESDの取組についてESD推進協議会や学校運営協議会等で，協議の場を継続的に設け実践に生かした。	16	31.4	10	62.5
2.	学校と連携した発表会を実施するなど，児童生徒と地域住民が一緒になってESDの取組について発表する機会を設け発信した。	9	17.6	5	31.3
2.	ESDの取組について公民館を使った発表会を実施するなど児童生徒が地域に出かけて発信した。				
3.	岡山市立公民館大会やESD岡山アワード等，公民館の担当地域以外の発表の場で地域住民がESDの取組について発表する機会を設け，発信した。	11	21.6	4	25.0
3.	岡山市子どもESDフォーラム等，児童生徒が中学校区等以外の発表の場で発信した。				
4.	公民館まつり等の場で地域住民がESDの取組について発表する機会を設け，発信した。	33	64.7	3	18.8
4.	学習発表会等の場で，ESDの取組について児童生徒が発表する場を設け地域の方に発信した。				
5.	公民館だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。	35	68.6	13	81.3
5.	学校だよりやHP等で，ESDの取組等について発信した。				
7.	成果を広く知らせるための取組は行えていない	2	3.9	0	0.0
7.	進め方が分からないため，実施していない。				
8.	必要感がないため，実施していない。	1	2.0		
9.	実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため，実施していない。	1	2.0		
10.	その他	3	5.9	4	25.0
		（回答者数51）		（回答者数16）	

【ESDの取組における学校、公民館、地域との連携・協働の進め方について】
学校③-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。
公民館③-1 ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。

「自校が希望して，コンソーシアム事業の団体（岡山大学，ベネッセ，イオン，ハート・オブ・ゴールド，岡山ユニセフ協会，岡山ユネスコ協会，公民館，ESD推進課）やESDコーディネーター，指導課等への照会で実施した。（公民館から，関係課・関係団体（教育委員会各課、ESD推進課、市民協働企画総務課（ESD・市民協働推進センター含む）、岡山市教育委員会のESDコーディネーター、岡山ESD推進協議会参加団体（大学、NPO、企業など））等へ照会して実施した。）」は、学校での取組みが卓越している（学校：21.6%、公民館：12.5%）。
「職員が作っていたネットワークを使って、学校に働きかけて実施した。（校外の研修会等で教職員が構築したネットワークを使って，直接交渉で実施した。）」は、公民館での取組みが卓越している（学校： 13.7%、公民館：50.0%）。
公民館は、職員のネットワークが連携・協働の源泉となっており、学校は、教育委員会や市長部局、関係団体への照会がきっかけとなっている。ただし、学校のほうは、何らかの理由で「実施していない」と答えたところが、のべ 34 校あった（公民館は 3 館）。

学校③-1　　市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。
公民館③-1　　ESDに係る学校との交流や連携については，どのように進めてきましたか。



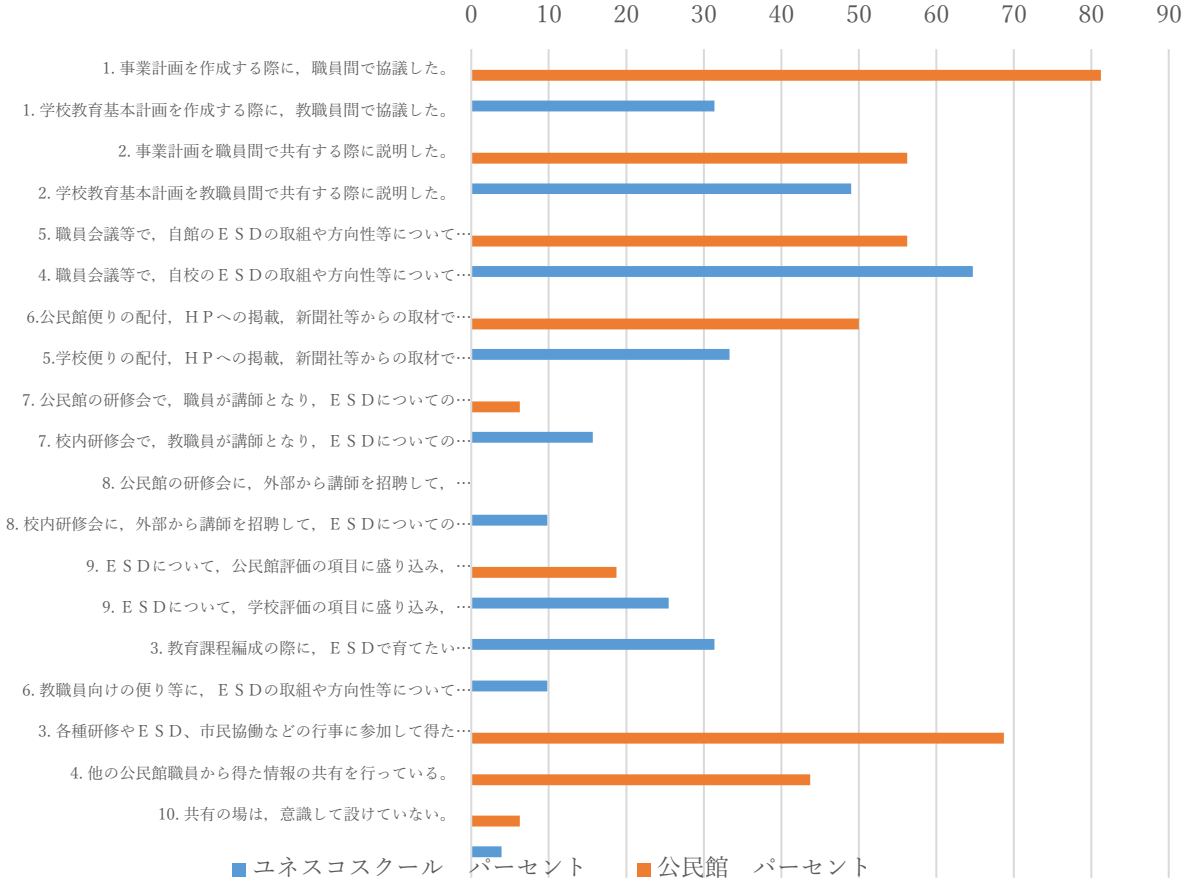
学校③-1 市内外の学校等と児童生徒が行う交流について，どのように進めてきましたか。
公民館③-1 ESD にかかる学校との交流や連携については、どのように進めてきましたか。

		ユネスコスクール度数	パーセント	公民館度数	パーセント
2.	公民館から，関係課・関係団体等へ照会して実施した。			2	12.5
1.	自校が希望して，コンソーシアム事業の団体 やESDコーディネーター,指導課等への照会で実施した。	11	21.6		
3.	関係課・関係団体等からの依頼、働きかけを受けて実施した。			2	12.5
2.	コンソーシアム事業の団体やESDコーディネーター，指導課等からの依頼で実施した。	1	2.0		
1.	職員が作っていたネットワークを使って、学校に働きかけて実施した。			8	50.0
3.	校外の研修会等で教職員が構築したネットワークを使って直接交渉で実施した。	7	13.7		
4.	他の公民館職員に照会し、紹介してもらったことがある。			0	0.0
5.	公民館の研修会等で得た情報をもとに実施した。			2	12.5
4.	ユネスコスクール研修会等で得た情報をもとに市内の学校と交流した。	2	3.9		
6.	実施していない。			3	18.8
5.	進め方が分からないため，実施していない。	8	15.7		
6.	必要感がないため，実施していない。	6	11.8		
7.	実施したいが，他にも必要なことがたくさんあるため実施していない。	20	39.2		
8.	その他			2	12.5
		9	17.6		
		（回答者数51）		（回答者数16）	

【ESDの取組に関する職員間の情報共有について】
学校④　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。
公民館④ 公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。

「学校教育基本計画を教職員間（事業計画を職員間）で共有する際に説明した。」（学校：49.0%、公民館：56.3%）、「職員会議等で，自校（自館）のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。」
（学校：64.7%、公民館：56.3%）は、学校、公民館ともに積極的に取り組まれている。
「事業計画（学校教育基本計画）を作成する際に，職員間（教職員間）で協議した。」は、公民館での取組みが卓越している（学校：31.4%、公民館：81.3%）。
職員間での情報共有については、学校、公民館とも職員会議等の日常の会議の場面で熱心に取り組まれている。一方、計画策定段階での協議は、公民館では職員間の協議が熱心に行われているものの、学校では一部にとどまっている。
さらに、「ESDについて，学校（公民館）評価の項目に盛り込み，学校（公民館）自己評価の際に話し合った。」は、学校、公民館とも取組みは一部にとどまっており（学校：25.5%、公民館：18.8%）、計画策定段階、情報共有段階、事後評価段階を通した共有は、全体としてみると、十分な段階にあるとはいえない。

学校④　　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。
公民館④ 公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。※複数回答可



学校④　　学校内の教職員間でESDについて，どのように共有されましたか。
公民館④ 公民館内の職員間でESDについて，どのように共有されましたか。※複数回答可

		ユネスコスクール度数	パーセント	公民館度数	パーセント
1.	事業計画を作成する際に，職員間で協議した。			13	81.3
1.	学校教育基本計画を作成する際に，教職員間で協議した。	16	31.4		
2.	事業計画を職員間で共有する際に説明した。			9	56.3
2.	学校教育基本計画を教職員間で共有する際に説明した。	25	49.0		
5.	職員会議等で，自館のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。			9	56.3
4.	職員会議等で，自校のESDの取組や方向性等について情報共有する場を設けた。	33	64.7		
6.	公民館便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を職員に伝えた。			8	50.0
5.	学校便りの配付，HPへの掲載，新聞社等からの取材で情報発信した内容を，教職員に伝えた。	17	33.3		
7.	公民館の研修会で，職員が講師となり，ESDについての研修を実施した。			1	6.3
7.	校内研修会で，教職員が講師となり，ESDについての研修を実施した。	8	15.7		
8.	公民館の研修会に，外部から講師を招聘して，ESDについての研修を実施した。			0	0.0
8.	校内研修会に，外部から講師を招聘して，ESDについての研修を実施した。	5	9.8		
9.	ESDについて，公民館評価の項目に盛り込み，公民館自己評価の際に話し合った。			3	18.8
9.	ESDについて，学校評価の項目に盛り込み学校自己評価の際に話し合った。	13	25.5		
3.	教育課程編成の際に，ESDで育てたい資質や能力について協議した。	16	31.4		
6.	教職員向けの便り等に，ESDの取組や方向性等について記載し配付した。	5	9.8		
3.	各種研修やESD、市民協働などの行事に参加して得た情報の共有を行っている。			11	68.8
4.	他の公民館職員から得た情報の共有を行っている。			7	43.8
10.	共有の場は，意識して設けていない。			1	6.3
		2	3.9		
		（回答者数51）		（回答者数16）	

第3章 ESD 活動推進のための評価指針の修正

1. ESD 活動推進のための評価指針（原案）

（1）基本的な考え方

1 年目に作成した評価指針の原案では、関係する文献の調査と岡山市内の学校教員及び公民館職員への面接調査の結果から、次の3つを評価指針の基本的な考え方とした。

① 評価の目的：ESD 活動の評価指針は目標指針でもある。

目標と評価は表裏一体の関係である。評価指針を作成することは、目標指針を作成することを意味している。したがって、評価指針による評価の目的は、ESD 活動の目標の到達度を示すことであり、ESD 活動の望ましい方向付けを行うことにある。「地域コミュニティでの ESD 推進」（ESD 岡山モデル）のための評価指針では、学校、地域、行政等のホール・アプローチによる ESD 活動の普及・発展の道筋を提示することが求められる。

② 評価項目：ESD 活動の意志や意識が向けられた方向性（志向性）を評価する。

ESD 活動では、活動の持続可能性が最も重要である。そこで活動の持続可能性の直接的な評価指標として、「次世代につなごうとしているか」を評価する（未来志向）。次に、ESD 活動の内容は時間の経過とともに変化する。したがって、ESD 活動を持続させるには、活動の内容とともに、活動に取り組む姿勢を評価することが求められる。そこで ESD 活動に「どう向き合っているか」を評価する（目的志向）。そして活動を持続させるには、様々なステークホルダー（人や団体）の参加・連携・協力と相互の信頼関係が不可欠であり、これらによって活動は内発的な発展を遂げる。そこで ESD 活動において「人と人とがつながっているか」を評価する（連帯志向）。

③ 評価尺度：ESD 活動の深化・充実の度合いを評価する。

今回の評価指針は ESD 活動の目標指針であり、ESD 活動の持続可能性を問うものである。したがって、ESD 活動の評価項目に対して、単に肯定的回答や否定的回答を求めるのではなく、ESD 活動の深化・充実の度合いの回答を求めるのが妥当である。度合いを尺度にすることによって、ESD 活動の進行具合を可視化できる。

2. ESD 活動推進のための評価指針（原案）

ESD 活動推進のための評価指針の基本的な考え方を踏まえ、指針の原案を作成した。これは評価項目を示しており、1つの次元と4つの要素、各要素における視点、及び各要素における評価指標の具体例から構成されている。この構成については、文献調査を踏まえ、南オーストラリア州のサスティナブル・スクールの評価の枠組みを参考にした。また、評価指標の具体例については、面接調査の結果を反映させた。

一方、評価指針では、評価項目とともに評価尺度を示す必要がある。ESD 活動の深化・充実の度合いに応じて、①スタート、②チャレンジ、③コミットメント、④トランスフォーム等の段階を設定し、各段階の評価指標を具体化することが求められる。これについては、2 年目以降の課題とした。

ESD 活動推進のための評価指針（原案）

１．文化の次元

視点：

①ヴィジョンと価値観、②相互関連性、③ホールスクールアプローチ

評価指標の具体例：

・新しい学びを創るという意識を持っているか。

・主体的・対話的な学びを実現させ、生涯にわたるアクティブ・ラーナーを育てようと思っているか。

・子どもにとってスプリングボードのような学び（できなかったことができるようなるためのきっかけを与えるような学び）を創ろうとしているか。

・地域を支える人を育てるという意識はあるか。

・ESD により当初期待していたことは 70%しか達成できていないが、期待していなかったことも含めると 120%達成できた、というような振り返りができているか。

・他者とかかわりながら ESD を進めることが自分を成長させることになり、それは子どもの成果へと返すことができる、という意識を持っているか。

・地域の課題を知れば知るほど、その解決は難しいことがわかるようになる。世の中は難解であることがわかるようになる。このことを意識して ESD に取り組んでいるか。

・学びに対して消極的な人に働きかけることを求めているか。

・ESD 活動を継続したいという気持ちがあるか。

・ESD 活動の内容を見直していきたいと思うか。

・次世代（30 年後）の人々に「先人の知恵」と呼ばれるようなことがあるか。そして今現在、そうしたことを創っているか。

・「先人の知恵」と呼ばれるようなことを創っている、という意識を持って活動しているか。例えば、防災を知るための街歩き。自分の学校は安全な場所に立っているか。

２．理解の要素

視点：

①学習と変化、②持続可能性のための学習、③持続可能性のための探究

評価指標の具体例：

・ESD 実践を通して自分自身が学んでいるか。

・ESD を通して自分が変わる。学校に対する見方が変わる。そのような機会があるか。

・子どもの自尊感情が高まっているか。

・子どものコミュニケーション能力や人間性が育っているか。

・子どもは ESD 活動を通してはぐくんだ価値観を持ち続けることができているか。

・地域とかかわることで、将来に対する考え方が変わる子ども現れてきているか。

・生活上の課題を地域課題として学習に取り入れているか。ある世代の生活上の課題をその世代だけに委ねるのではなく、てしまっている。例えば、待機児童の問題。

・学習の課題が開かれたものになっているか。じつは多様な人々がかかわることのできる課題、かかわらなければならない課題として捉えることができているか。

・探求的な学びになっているか。

・問いが連続するような学びを創ろうとしているか。

３．学びの要素

視点：

①カリキュラム、②学習環境、③教授法

評価指標の具体例：

・地域の課題に向き合っているか。

・地域の課題を解決する活動に取り組んでいるか。

・地域学習として定着しているか。

・地域の活性化をめざした取り組みになっているか。

・地域学習が ESD に自然な形で発展しているか。

・学校の取り組みが外に開かれているか。他の学校とのネットワークを形成しようとしているか。

・ユネスコスクールになる気があるか。なろうと試行しているか。

・ESD を学校教育の中で別物と捉えていないか。

・ESD に教科・領域等横断的に取り組んでいるか。

４．コミュニティの要素

視点：

①コミュニティのつながり、②能力開発、③パートナーシップづくり

評価指標の具体例：

・子どもと親とのつながりを生んでいるか。

・子どもは地域に貢献したいと気持ちを持つようになっているか。

・子どもは地域に対する愛着を抱くようになっているか。

・学校間の交流が増え、教師同士の良い関係ができているか。

・地域の人の学校教育への思い入れは強いか。

・元々住んでいる人だけでなく、新しく住むようになった人も学校に対して協力的か。

・地域の人々のつながりが生まれる活動を展開しているか。

・ESD のティーチング・コミュニティーを創るだけでなく、ラーニング・コミュニティーを創っているか。

・学校の学びを支えているか。

・学校教育の主目的と地域の教育のそれとの違いを認識しているか。

・子どもたちに対して学校時代に共通経験をしてほしい、という気持ちを持っているか。いわゆる青少年期の刷り込み。つまり、子どもたちが大人になって郷里に戻った時に、戻る場所をつくっておきたい、という気持ちを持っているか。学校への期待として。

・子どもたちに対して学校時代に共通経験をしてほしい、という気持ちを学校と共有できているか。

・NPOは学校支援をどのように展開しているか。

・NPOは課題ベースで動いているはずなのに、空間（地域）ベースで動くことに陥っていないか。

５．運営の要素

視点：

①リーダーシップ、②ガバナンス、③計画と運営

評価指標の具体例：

・異質な他者との合意形成のために共通言語を持とうとしているか。紡ごうとしているか。

・多様な主体を尊重した合意形成・意思決定の仕組みがあるか。

・その仕組みには合理性、透明性、公平性、民主性が備わっているか。
・ESD活動を継続するための仕組みがあるか。
・ESD活動を進めるために、学校と公民館は連携しているか。
・ESDコーディネーターを公民館に置くなど、市の政策があるか。
・ESD推進ための行政組織があるか。岡山では推進協議会がある。行政外ではあるが。
・一時的な一過性の行政組織になっていないか。
・外に開かれた行政組織になっているか。他の自治体とのネットワークを形成しようとしているか。つまり、RCEになる気があるか、なろうと試行しているか。
・行政の枠内で組織同士がつながっているか。推進課と教委で、教委内で、等。
・先進地域の情報を収集し、共有しているか。
・ESD推進のための財政ポリシーがあるか。
・人とお金をどけだけ割いているか。財政全体の何％（数値）

2. ESD 活動推進のための評価指針（修正案）

2 年目の事業では、岡山 ESD 推進協議会の参加団体から 1 年目に作成した評価指針の原案に対する意見を聴取するとともに、岡山市内のユネスコスクールと公民館を対象とした ESD 活動に関する本調査を実施した。3 年目の事業では、聴取した意見と本調査の結果、ならびに以下に示す諸団体の ESD 活動の評価基準を踏まえ、評価指針の原案を修正した。

・岡山 ESD 推進協議会 ESD 岡山アワード岡山地域賞 審査基準
・岡山 ESD 推進協議会 岡山 ESD プロジェクト活動支援助成金 審査項目
・ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（UnivNet） ユネスコスクール加盟希望校 活動内容
・岡山市教育委員会 ユネスコスクール推進校 振り返りシート
・岡山市 公民館 ESD 活動振り返りシート
・南オーストラリア州 「持続可能性のための教育」の評価指針

（1）評価指針の概念−志向性の評価−

図 2-1 は、評価指針の修正案の概念図である。その中心には評価指針の目的である「地域コミュニティでの ESD の普及・発展」が置かれ、そこから 3 つの志向性が広がっている。この志向性とは ESD 活動の意志や意識が向けられた方向性であり、評価指針は志向性を評価することを最も重要とする。そして第1の志向性は、未来志向（ESD 活動の持続可能性） であり、「次世代につなごうとしているか」を評価する。第 2 は、（ESD 活動に取り組む姿勢と変容）であり、「どう向き合っているか」を評価する。そして第 3 に、連帯志向（ESD 活動による内発的発展）であり、「人と人がつながっているか」を評価する。

各志向性に属する評価領域は、未来志向では「A ビジョン」「B 発展性」、目的志向では「C 統合」「D エンパワーメント」、連帯志向では「E 協働」である。これらの評価領域は、岡山 ESD 推進協議会による ESD 岡山アワード岡山地域賞の審査基準に則っている。その理由は、岡山アワード岡山地域賞と今回の評価指針はともに地域コミュニティでの ESD 推進の範例「ESD 岡山モデル」の普及・発展をめざしていることから、共通の評価領域とするのが妥当であると考えたからである。

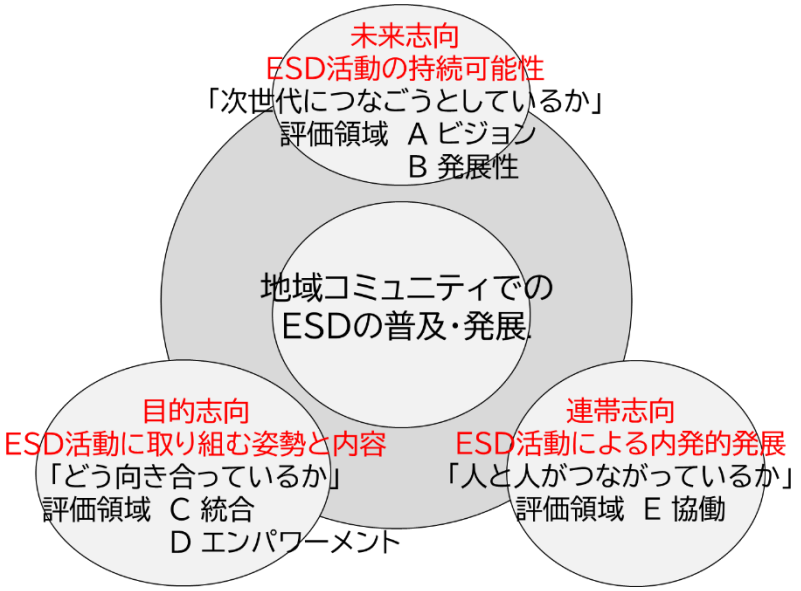


図 2-1　　評価指針の概念図

志向性	領域	サブ領域
未来志向	A ビジョン	A1 ESD活動の目的の明確化
		A2 「持続可能な社会づくり」の文化の形成
	B 発展性	B1 ESD活動を継続するための体制
		B2 ESD活動による次世代の担い手育成の仕組み
目的志向	C 統合	C1 相互関連の視点
		C2 課題解決の視点
	D エンパワーメント	D1 ESDの学習の特長
		D2 ESDの学習と実践の往還
連帯志向	E 協働	E1 多様なステークホルダー（人や団体）の参加、連携、協力
		E2 多様なステークホルダー（人や団体）間の信頼関係

図 2-2　　評価の領域とサブ領域

（2）評価領域

図 2-2 は評価領域とサブ領域の一覧である。未来志向に属する（A）ビジョンは「持続可能な社会の実現に向けた地域コミュニティのビジョン、事業が取り組む課題や目的を明確にしているか」（ESD 岡山アワード岡山地域賞の審査内容。以下、同様）を評価する領域であり、これに直結する「ESD 活動の目的の明確化」とビジョンの最終目的である「『持続可能な社会づくり』の文化の形成」をサブ領域とする。（B）発展性は「事業が継続的に行われ、かつ発展する見込みがあり、岡山地域の他の事業の参考に波及することが期待される」ことを評価する領域であり、「ESD 活動を継続するための体制」と継続にとって必須の「ESD 活動による次世代の担い手育成の仕組み」をサブ領域とする。

目的志向に属する（C）統合は「環境、経済、社会の視点を複数組み入れているか」を評価する領域であり、ESD 活動で扱う学習内容の「相互関連の視点」や学習方法における「課題解決の視点」をサブ領域とする。（D）エンパワーメントは「持続可能な社会の実現に向けて、課題解決のための学び合いや実践を促す教育が行われ、個人の価値観・態度・行動の変容や地域力の向上につながっているか」を評価する領域であり、ESD 活動による学習者のエンパワーメントに注目し、「ESD の学習の特長」と「ESD の学習と実践の往還」をサブ領域とする。

そして連帯志向に属する（E）協働は、「多様なステークホルダー（人や団体）と協働しているか」を評価する領域であり、「多様なステークホルダーの参加、連携、協力」とそれに伴う「多様なステークホルダー間の信頼関係」をサブ領域とする。

（3）評価指標、評価項目、到達度

図 2-3 は評価指標、評価項目、到達度を説明している。評価指標はインプット、アウトプット、アウトカムから構成されており、それぞれ ESD 活動の計画・実践、ESD 活動の成果、ESD 活動の社会関係資本への波及効果を見る指標である。基本的にはインプットとアウトプットは対応関係にあり、アウトプットがアウトカムに発展することを想定している。 次に評価項目は ESD 活動の目標の方向性を示しており、ESD 活動に関する設問にあたる。各サブ領域の評価指標ごとに複数設定されている。

そして到達度は 1～4 の四段階であり、スタート（努力を要する）、チャレンジ（不十分）、コミットメント（期待通り）、トランスフォーム（期待以上）に分けられている。

志向性
→ ESD活動の意志や意識の方向性

評価項目
→ ESD活動の目標の方向性

到達レベル
→ ESD活動の深化・充実の度合い

次世代につなごうとしているか

ESD活動の計画・実践指標

ESD活動の成果指標

ESD活動の社会関係資本への波及指標

やったこと

できたこと

波及効果

志向性	領域	サブ領域	指標	項目	レベル1 スタート（努力必要）	レベル2 チャレンジ（不十分）	レベル3 コミットメント（期待通り）	レベル4 トランスフォーム（期待以上）
未来志向	A ビジョン	A1 ESD活動の目的の明確化	インプット	1「持続可能な社会づくり」に向けた中長期的な学校のビジョン（将来像）を示している。			学校の中長期的な（**年先の）ビジョンを示している。	
				2「持続可能な社会づくり」にとっての問題や課題を学校として捉えている。			問題や課題とそれらの複雑さを十分捉えている。	
				3 SDGsや「ESD for 2030」など、ESD推進の国際的枠組みを学校として捉えている。			国際的枠組みを十分捉えている	
				4「持続可能な社会づくり」に向けた学校教育目標を明確にしている。			学校教育目標を明確にしている。	
			アウトプット	1 校内研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
				2 他校との合同研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
				3 公民館や地域住民との研修の場を設け、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
			アウトカム	1「持続可能な社会づくり」に向けた「新しい学びをつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	
				2「持続可能な社会づくり」に向けた「地域を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	
				3「持続可能な社会づくり」に向けた「世界を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	

図 2-3　　評価指標、評価項目、到達度

（4）ESD 活動推進のための評価指針（修正案）-学校教育用-

これまで述べてきたような評価指針の枠組みに沿って、1 年目に作成した ESD 活動推進のための評価指針（原案）を修正した。学校教育用のものを次頁以降に示す（到達度はレベル 3 のみ記載）。社会教育用のものは学校教育用のものを転用し、最終年度早々に示す。

ESD活動推進のための評価指標（学校用）

志向性	領域	サブ領域	指標	項目	到達度			
					レベル1 スタート （努力必要）	レベル2 チャレンジ （不十分）	レベル3 コミットメント （期待通り）	レベル4 トランスフォーム （期待以上）
未来志向 次世代につなごうとしているか	A ビジョン	A1　ESD活動の目的の明確化	インプット	1 「持続可能な社会づくり」に向けた中長期的な学校のビジョン（将来像）を示している。			学校の中長期的な(**年先の)ビジョンを示している。	
				2 「持続可能な社会づくり」にとっての問題や課題を学校として捉えている。			問題や課題とそれらの複雑さを十分捉えている。	
				3　SDGsや「ESD for 2030」など、ESD推進の国際的枠組みを学校として捉えている。			国際的枠組みを十分捉えている。	
				4 「持続可能な社会づくり」に向けた学校教育目標を明確にしている。			学校教育目標を明確にしている。	
			アウトプット	1　校内研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
				2　他校との合同研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
				3　公民館や地域住民との研修の場を設け、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教職員が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
			アウトカム	1 「持続可能な社会づくり」に向けた「新しい学びをつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	
				2 「持続可能な社会づくり」に向けた「地域を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	
				3 「持続可能な社会づくり」に向けた「世界を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の教職員が目的意識を持っている。	
		A2 「持続可能な社会づくり」の文化の形成	インプット	1　児童生徒が「持続可能な社会づくり」についての信念や価値観を振り返っている。			児童生徒が信念や価値観を十分振り返っている。	
				2　教職員が「持続可能な社会づくり」についての信念や価値観を振り返っている。			教職員が信念や価値観を十分振り返っている。	
			アウトプット	1　児童生徒が「持続可能な社会づくり」に果たす自分の役割を捉えている。			児童生徒が自分の役割を十分捉えている。	
				2　教職員が「持続可能な社会づくり」に果たす自分の役割を捉えている。			教職員が自分の役割を十分捉えている。	

			アウトカム	1　学校内で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。			形成されていることを示す具体例を挙げることができる。	
				2　学校のある地域で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。			形成されていることを示す具体例を挙げることができる。	
	B　発展性	B1　ESD活動を継続するための体制	インプット	1　ESD活動を総括的に評価し、改善するための仕組みがある。			評価・改善の仕組みが十分整っている。	
				2　ESD活動のプロセスを評価し、適宜改善するための仕組みがある。			評価・改善の仕組みが十分整っている。	
				3　ESD活動を更新するための視点がある。			新たな視点の具体例を挙げることができる。	
				4　ESD活動を継続するための組織と予算を準備している。			組織と予算を十分準備している。	
			アウトプット	1　アンケート調査等によってESD活動を総括的に評価し、次に活かす取り組みを行っている。			総括的評価により、成果と課題が明確になっている。	
				2　面談等によってESD活動を形成的に評価し、次に活かす取り組みを行っている。			形成的評価により、成果と課題が明確になっている。	
				3　ESD活動を更新するための視点は有効である。			更新するための視点は十分有効である。	
				4　ESD活動を継続するための組織と予算は有効である。			組織と予算は十分有効である。	
			アウトカム	1　ESD活動を続けたいという気持ちを持っている。			**%の教職員が続けたいという気持ちを持っている。	
				2　ESD活動により、教職員同士の良い関係ができている。			**%の教職員が良い関係ができていると捉えている。	
				3　ユネスコスクールになる意思がある。既にユネスコスクールの場合は、ユネスコスクールとしての質向上を図る意思がある。			**%の教職員がそうした意思がある。	
		B2　ESD活動による次世代の担い手育成の仕組み	インプット	1　ESD活動において、児童生徒の創造的な取り組みを促している。			創造的な取り組みを促すための具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、学校教育段階の異年齢集団が交流している。			交流の具体例を挙げることができる。	

				3　ESD活動の成果を児童生徒が発信している。			発信の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　ESD活動において、児童生徒の創造的な取り組みが生まれている。			創造的な取り組みの具体例を挙げることができる。	
				2　児童生徒が異年齢集団との交流を意義あるものと捉えている。			**%の児童生徒が意義あるものと捉えている。	
				3　発信したESD活動の成果に対する反響を児童生徒にフィードバックしている。			フィードバックの具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　児童生徒が学校に対する愛着を感じている。			**%の児童生徒が愛着を感じている。	
				2　児童生徒が学校に貢献したいという気持ちを持っている。			**%の児童生徒が貢献したいという気持ちを持っている。	
				3　児童生徒が地域に対する愛着を感じている。			**%の児童生徒が愛着を感じている。	
				4　児童生徒が地域に貢献したいという気持ちを持っている。			**%の児童生徒が貢献したいという気持ちを持っている。	
目的志向	C　統合	C1　相互関連の視点	インプット	1　ESD活動において、環境・経済・社会の複数の視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
どう向き合っているか				2　ESD活動において、様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、教科・領域等の横断的な学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　児童生徒が環境・経済・社会の相互関連とその複雑さを理解している。			**%の児童生徒が理解していると捉えている。	
				2　児童生徒が様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の相互関連とその複雑さを理解している。			**%の児童生徒が理解していると捉えている。	
			アウトカム	1　児童生徒に「持続可能な社会づくり」に必要な価値観（多様性の尊重、環境の尊重等）が育っている。			育っていることを示す具体例を挙げることができる。	
		C2　課題解決の視点	インプット	1　ESD活動において、地域課題を解決するという視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	

				2　ESD活動において、グローバルに考え、ローカルに行動するという視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、探究学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　児童生徒が、学習が地域課題の解決につながるということを理解している。			**%の児童生徒が理解していると捉えている。	
				2　児童生徒がグローバルに考え、ローカルに行動することを意識している。			**%の児童生徒が意識している。	
			アウトカム	1　児童生徒に課題発見、問題解決の姿勢が身についている。			姿勢が身についていることを示す具体例を挙げることができる。	
				2　児童生徒が生活上の課題を地域の課題として捉えている。			捉えていることを示す具体例を挙げることができる。	
	D　エンパワーメント	D1　ESDの学習の特長	インプット	1　ESD活動において、自分との関連（自分事）を意識した学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力の育成を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、学び合いの学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　学習課題に対して、児童生徒が自分との関連（自分事）を意識している。			**%の児童生徒が意識している。	
				2　児童生徒に未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力が身についている。			**%の児童生徒が身についたと捉えている。	
				3　児童生徒に他者との対話が増え、コミュニケーション能力が身についている。			**%の児童生徒が身についたと捉えている。	
				4　学習課題に対して、教員が自分との関連（自分事）を意識している。			**%の教員が意識している。	
				5　教員に未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力が身についている。			**%の教員が身についたと捉えている。	
				6　教員に他者との対話が増え、コミュニケーション能力が身についている。			**%の教員が身についたと捉えている。	

			アウトカム	1　児童生徒が学校生活に喜びや楽しさを感じている。			**%の児童生徒が感じている。	
				2　児童生徒に物事の本質を見る目が育っている。			**%の児童生徒が育っていると捉えている。	
				3　児童生徒に他者を尊重し、協働する態度が育っている。			**%の児童生徒が育っていると捉えている。	
				4　教員が学校生活に喜びや楽しさを感じている。			**%の教員が感じている。	
				5　教員に物事の本質を見る目が育っている。			**%の教員が育っていると捉えている。	
				6　教員に他者を尊重し、協働する態度が育っている。			**%の教員が育っていると捉えている。	
		C2　ESDの学習と実践の往還	インプット	1　ESD活動において、参加・体験型の学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、地域とかかわる学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、「持続可能な社会づくり」に向けた行動を促す学習を進めている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　児童生徒が学習に参加しているという意識を持っている。			**%の児童生徒が意識を持っている。	
				2　児童生徒が学習を通して地域とかかわっていると感じている。			**%の児童生徒が感じている。	
				3　児童生徒が「持続可能な社会づくり」に向けた自分の行動の変化を感じている。			**%の児童生徒が感じている。	
				4　教員が学習に参加しているという意識を持っている。			**%の教員が意識を持っている。	
				5　教員が学習を通して地域とかかわっていると感じている。			**%の教員が感じている。	
				6　教員が「持続可能な社会づくり」に向けた自分の行動の変化を感じている。			**%の教員が感じている。	

			アウトカム	1　児童生徒が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。			**%の児童生徒が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。	
				2　地域とかかわることで、児童生徒の将来の社会に対する考え方が変化している。			**%の児童生徒が変化していると捉えている。	
				3　児童生徒が「持続可能な社会づくり」のために自分ができることを実践している。			**%の児童生徒が実践していると捉えている。	
				4　教員が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。			**%の教員が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。	
				5　地域とかかわることで、教員の将来の社会に対する考え方が変化している。			**%の教員が変化していると捉えている。	
				6　教員が「持続可能な社会づくり」のために自分ができることを実践している。			**%の教員が実践していると捉えている。	
協働志向 人と人がつながっているか	E　協働	E1　多様なステークホルダー（人や団体）の参加、連携、協力	インプット	1　ESD活動について、学校運営協議会等で保護者と意見交換を行っている。			継続的な意見交換を行っている。	
				2　ESD活動について、学校運営協議会等で公民館や地域住民と意見交換を行っている。			継続的な意見交換を行っている。	
				3　ESD活動について、専門性を有する機関や団体と協議している。			継続的な協議を行っている。	
			アウトプット	1　ESD活動において、保護者が学校を支援している。			支援の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、公民館や地域住民が学校を支援している。			支援の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、専門性を有する機関や団体が学校を支援している。			支援の具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　学校の教育活動全体において、保護者が学校を支援している。			支援の具体例を挙げることができる。	
				2　学校の教育活動全体において、公民館や地域住民が学校を支援している。			支援の具体例を挙げることができる。	
				3　学校と専門性を有する機関や団体との間で相乗効果が見られる。			相乗効果の具体例を挙げることができる。	

		E2　多様なステークホルダー（人や団体）間の信頼関係	インプット	1　ESD活動により、学校と保護者とのつながりが生まれる取り組みを展開している。			継続的に展開している。	
				2　ESD活動により、学校と公民館や地域住民とのつながりが生まれる取り組みを展開している。			継続的に展開している。	
				3　ESD活動により、学校と専門性を有する機関や団体とのつながりが生まれる取り組みを展開している。			継続的に展開している。	
			アウトプット	1　保護者が学校を信頼している。			信頼関係の具体例を挙げることができる。	
				2　公民館や地域住民が学校を信頼している。			信頼関係の具体例を挙げることができる。	
				3　専門性を有する機関や団体が学校を信頼している。			信頼関係の具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　地域課題の解決において、保護者や地域住民から学校に対する期待がある。			期待を示す具体例を挙げることができる。	
				2　学校の課題の解決において、学校から保護者や地域住民に対する期待がある。			期待を示す具体例を挙げることができる。	
				3　多様なステークホルダーを尊重した合意形成・意思決定が行われている。			行われていることを示す具体例を挙げることができる。	

ESD活動推進のための評価指標（社会教育用）

志向性	領域	サブ領域	指標	項目	到達度			
					レベル1 スタート （努力必要）	レベル2 チャレンジ （不十分）	レベル3 コミットメント （期待通り）	レベル4 トランスフォーム （期待以上）
未来志向	A ビジョン	A1　ESD活動の目的の明確化	インプット	1 「持続可能な社会づくり」に向けた中長期的な社会教育施設のビジョン（将来像）を示している。			教育施設の中長期的な(**年先の)ビジョンを示している。	
次世代につなごうとしているか				2 「持続可能な社会づくり」にとっての問題や課題を社会教育施設として捉えている。			問題や課題とそれらの複雑さを十分捉えている。	
				3　SDGsや「ESD for 2030」など、ESD推進の国際的枠組みを社会教育施設として捉えている。			国際的枠組みを十分捉えている。	
				4 「持続可能な社会づくり」に向けた活動目標を明確にしている。			活動目標を明確にしている。	
			アウトプット	1　職員研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教育者が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
				2　他施設や地域住民との合同研修を実施し、ESD活動の目的を明確にし、共有している。			教育者が目的の明確化と共有は十分であると捉えている。	
			アウトカム	1 「持続可能な社会づくり」に向けた「新しい学びをつくる」という目的意識を持っている。			**%の職員が目的意識を持っている。	
				2 「持続可能な社会づくり」に向けた「地域を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の職員が目的意識を持っている。	
				3 「持続可能な社会づくり」に向けた「世界を支える人をつくる」という目的意識を持っている。			**%の職員が目的意識を持っている。	
		A2 「持続可能な社会づくり」の文化の形成	インプット	1　学習者が「持続可能な社会づくり」についての信念や価値観を振り返っている。			学習者が信念や価値観を十分振り返っている。	
				2　教育者が「持続可能な社会づくり」についての信念や価値観を振り返っている。			職員が信念や価値観を十分振り返っている。	
			アウトプット	1　学習者が「持続可能な社会づくり」に果たす自分の役割を捉えている。			学習者が自分の役割を十分捉えている。	
				2　教育者が「持続可能な社会づくり」に果たす自分の役割を捉えている。			職員が自分の役割を十分捉えている。	

			アウトカム	1　施設内で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。			形成されていることを示す具体例を挙げることができる。	
				2　施設のある地域で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。			形成されていることを示す具体例を挙げることができる。	
	B　発展性	B1　ESD活動を継続するための体制	インプット	1　ESD活動を総括的に評価し、改善するための仕組みがある。			評価・改善の仕組みが十分整っている。	
				2　ESD活動のプロセスを評価し、適宜改善するための仕組みがある。			評価・改善の仕組みが十分整っている。	
				3　ESD活動を更新するための視点がある。			新たな視点の具体例を挙げることができる。	
				4　ESD活動を継続するための組織と予算を準備している。			組織と予算を十分準備している。	
			アウトプット	1　アンケート調査等によってESD活動を総括的に評価し、次に活かす取り組みを行っている。			総括的評価により、成果と課題が明確になっている。	
				2　面談等によってESD活動を形成的に評価し、次に活かす取り組みを行っている。			形成的評価により、成果と課題が明確になっている。	
				3　ESD活動を更新するための視点は有効である。			更新するための視点は十分有効である。	
				4　ESD活動を継続するための組織と予算は有効である。			組織と予算は十分有効である。	
			アウトカム	1　ESD活動を続けたいという気持ちを持っている。			**%の職員が続けたいという気持ちを持っている。	
				2　ESD活動により、教育者同士の良い関係ができている。			**%の職員が良い関係ができていると捉えている。	
		B2　ESD活動による次世代の担い手育成の仕組み	インプット	1　ESD活動において、学習者の創造的な取り組みを促している。			創造的な取り組みを促すための具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、異年齢集団が交流している。			交流の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動の成果を学習者が発信している。			発信の具体例を挙げることができる。	

			アウトプット	1　ESD活動において、学習者の創造的な取り組みが生まれている。			創造的な取り組みの具体例を挙げることができる。	
				2　学習者が異年齢集団との交流を意義あるものと捉えている。			**%の学習者が意義あるものと捉えている。	
				3　発信したESD活動の成果に対する反響を学習者にフィードバックしている。			フィードバックの具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　学習者が施設に対する愛着を感じている。			**%の学習者が愛着を感じている。	
				2　学習者が施設に貢献したいという気持ちを持っている。			**%の学習者が貢献したいという気持ちを持っている。	
				3　学習者が地域に対する愛着を感じている。			**%の学習者が愛着を感じている。	
				4　学習者が地域に貢献したいという気持ちを持っている。			**%の学習者が貢献したいという気持ちを持っている。	
目的志向 どう向き合っているか	C　統合	C1　相互関連の視点	インプット	1　ESD活動において、環境・経済・社会の複数の視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、教科・領域等の横断的な学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　学習者が環境・経済・社会の相互関連とその複雑さを理解している。			**%の児童生徒が理解していると捉えている。	
				2　学習者が様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の相互関連とその複雑さを理解している。			**%の児童生徒が理解していると捉えている。	
			アウトカム	1　学習者に「持続可能な社会づくり」に必要な価値観（多様性の尊重、環境の尊重等）が育っている。			育っていることを示す具体例を挙げることができる。	
		C2　課題解決の視点	インプット	1　ESD活動において、地域課題を解決するという視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、グローバルに考え、ローカルに行動するという視点を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、探究学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	

			アウトプット	1　学習者が、学習が地域課題の解決につながるということを理解している。			**%の学習者が理解していると捉えている。	
				2　学習者がグローバルに考え、ローカルに行動することを意識している。			**%の学習者が意識している。	
			アウトカム	1　学習者に課題発見、問題解決の姿勢が身についている。			姿勢が身についていることを示す具体例を挙げることができる。	
				2　学習者が生活上の課題を地域の課題として捉えている。			捉えていることを示す具体例を挙げることができる。	
	D　エンパワーメント	D1　ESDの学習の特長	インプット	1　ESD活動において、自分との関連（自分事）を意識した学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力の育成を学習に取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、学び合いの学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　学習課題に対して、学習者が自分との関連（自分事）を意識している。			**%の学習者が意識している。	
				2　学習者に未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力が身についている。			**%の学習者が身についたと捉えている。	
				3　学習者に他者との対話が増え、コミュニケーション能力が身についている。			**%の学習者が身についたと捉えている。	
				4　学習課題に対して、職員が自分との関連（自分事）を意識している。			**%の職員が意識している。	
				5　職員に未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力が身についている。			**%の職員が身についたと捉えている。	
				6　職員に他者との対話が増え、コミュニケーション能力が身についている。			**%の職員が身についたと捉えている。	
			アウトカム	1　学習者が学校生活に、成人は社会生活に対して喜びや楽しさを感じている。			**%の学習者が感じている。	
				2　学習者に物事の本質を見る目が育っている。			**%の学習者が育っていると捉えている。	
				3　学習者に他者を尊重し、協働する態度が育っている。			**%の学習者が育っていると捉えている。	

				4　職員が仕事に喜びや楽しさを感じている。			**%の職員が感じている。	
				5　職員に物事の本質を見る目が育っている。			**%の職員が育っていると捉えている。	
				6　職員に他者を尊重し、協働する態度が育っている。			**%の職員が育っていると捉えている。	
		C2　ESDの学習と実践の往還	インプット	1　ESD活動において、参加・体験型の学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				2　ESD活動において、地域とかかわる学習を取り入れている。			学習の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、「持続可能な社会づくり」に向けた行動を促す学習を進めている。			学習の具体例を挙げることができる。	
			アウトプット	1　学習者が学習に参加しているという意識を持っている。			**%の学習者が意識を持っている。	
				2　学習者が学習を通して地域とかかわっていると感じている。			**%の学習者が感じている。	
				3　学習者が「持続可能な社会づくり」に向けた自分の行動の変化を感じている。			**%の学習者が感じている。	
				4　職員が学習に参加しているという意識を持っている。			**%の職員が意識を持っている。	
				5　職員が学習を通して地域とかかわっていると感じている。			**%の職員が感じている。	
				6　職員が「持続可能な社会づくり」に向けた自分の行動の変化を感じている。			**%の職員が感じている。	
			アウトカム	1　学習者が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。			**%の学習者が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。	
				2　地域とかかわることで、学習者の将来の社会に対する考え方が変化している。			**%の学習者が変化していると捉えている。	
				3　職員が「持続可能な社会づくり」のために自分ができることを実践している。			**%の学習者が実践していると捉えている。	
				4　職員が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。			**%の職員が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。	

				5　地域とかかわることで、職員の将来の社会に対する考え方が変化している。			**%の職員が変化していると捉えている。	
				6　職員が「持続可能な社会づくり」のために自分ができることを実践している。			**%の職員が実践していると捉えている。	
協働志向 人と人がつながっているか	E　協働	E1　多様なステークホルダー（人や団体）の参加、連携、協力	インプット	1　ESD活動について、学校運営協議会等で学校・公民館などと地域住民とで意見交換を行っている。			継続的な意見交換を行っている。	
				2　ESD活動について、専門性を有する機関や団体と協議している。			継続的な協議を行っている。	
			アウトプット	2　ESD活動において、公民館や地域住民が学校を協働している。			協働の具体例を挙げることができる。	
				3　ESD活動において、専門性を有する機関や団体と協働している。			協働の具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　ESD活動全体において、公民館・地域住民が学校を支援している。			協働の具体例を挙げることができる。	
				2　専門性を有する機関や団体との間で相乗効果が見られる。			相乗効果の具体例を挙げることができる。	
		E2　多様なステークホルダー（人や団体）間の信頼関係	インプット	1　ESD活動により、公民館と学校・地域住民とのつながりが生まれる取り組みを展開している。			継続的に展開している。	
				2　ESD活動により、専門性を有する機関や団体とのつながりが生まれる取り組みを展開している。			継続的に展開している。	
			アウトプット	1　地域住民が公民館を信頼している。			信頼関係の具体例を挙げることができる。	
				2　専門性を有する機関や団体が公民館や学校を信頼している。			信頼関係の具体例を挙げることができる。	
			アウトカム	1　地域課題の解決において、保護者や地域住民と学校、そして公民館がお互いに対する期待がある。			期待を示す具体例を挙げることができる。	
				2　多様なステークホルダーを尊重した合意形成・意思決定が行われている。			行われていることを示す具体例を挙げることができる。	

第4章 最終年度の事業に向けて

平成 30 年度（3 年目）は、前年度に聴取した評価指針の原案に対する意見、岡山市内のユネスコスクール（小学校 36 校、中学校 15 校）と公民館（16 館）を対象とした ESD 活動に関する質問紙調査の結果、及び諸団体の ESD 活動の評価基準（岡山 ESD 推進協議会による褒章の審査基準等）を踏まえ、評価指針の原案を修正した。これを「ESD 活動推進のための評価指針－地域コミュニティでの ESD 推進のための手引きー」の修正案とした。
令和元年（4 年目、最終年度）は、修正案をもとに以下を実施する。

① 岡山 ESD 推進協議会の参加団体や外部の専門家から、修正案に対する意見を聴取する。 意見を踏まえ、修正案をより良いものに改変する。

② 各評価領域（サブ領域）において、評価項目の到達度を高めるための助言（具体事例を交えた）を執筆する。この助言を評価指針に組み込む。

③ 以上の工程により、「ESD 活動推進のための評価指針－地域コミュニティでの ESD 推進のための手引きー」の日本語版の完成とする。これをもとに英訳版を作成する。そして ESD 岡山モデルの世界的普及をめざして、日本語版と英訳版を公表する。

岡山ESD推進協議会委託事業

ESD 活動推進のための評価指針策定に向けた調査

ー地域コミュニティでの ESD 推進のための手引き作成に向けてー

平成 30 年度報告書

平成31年3月

岡山大学　作成